CG-WLBARAGND
詳細設定ガイド

Contents

Y613-15561-01 Rev.A

はじめに

このたびは、「CG-WLBARAGND」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本書は本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

http://corega.jp/

本書の読み方

■記号について

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。		**補足事項や参考となる情報を説明しています。**

■表記について

本商品	CG-WLBARAGND のことです。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例 : OK → [OK]
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista™ Home Basic 、 Microsoft® Windows Vista™ Home Premium、 Microsoft® Windows Vista™ Business および Microsoft® Windows Vista™ Ultimate
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版およびMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版のことです。
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版のことです。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版のことです。
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版のことです。

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

■イラスト／画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

マニュアルの種類と使い方

本商品には次のマニュアルがあります。本商品をお使いになる状況に合わせて、それぞれのマニュアルをご覧ください。各マニュアルは、弊社のホームページ（http://corega.jp/）で提供しています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。

■お使いの手引き（付属）

本商品を使い始めるまでのセットアップ作業について説明しています。また、「Q&A」では代表的なトラブルとその対処方法を説明しています。

■詳細設定ガイド（本書、PDF マニュアル）

各機能の使用方法、本商品の詳しい設定方法を説明しています。

本書の構成

本書は本商品についての情報や、設置・接続・設定方法などついて説明しています。本書の構成は次のとおりです。

■第 1 章　こんなときはこの設定（無線編）

本商品の無線機能の設定について説明します。

■第 2 章　こんなときはこの設定（各種設定編）

本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

■第 3 章　こんなときはこの設定（サポート編）

本商品の各サポート機能およびお使いの環境の設定方法について説明します。

■第 4 章　設定画面について

本商品の設定画面について説明します。

目次

第 4 章

第 1 章

こんなときはこの設定（無線編）

この章では、本商品の無線機能の設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

1.1　設定画面を表示するには

本商品の設定画面を表示するには Web ブラウザが必要です。また、設定時には本商品に接続されているパソコンのうち 1 台から設定作業を行います。Web ブラウザには本商品の推奨ブラウザをご利用ください。そのほかの Web ブラウザでは、正常に設定できない場合があります。

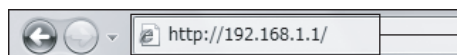
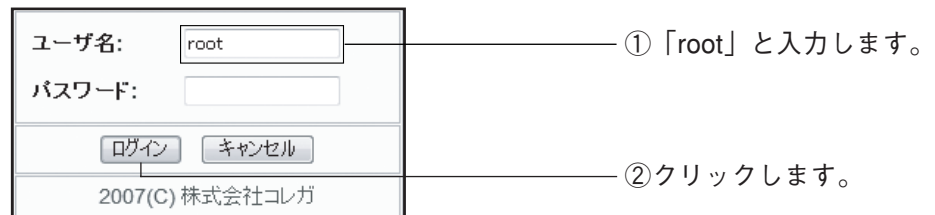
- 本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続することをお勧めします。
- 設定用パソコンでウィルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。

1　推奨ブラウザを起動します。

本商品に接続したパソコンで、Web ブラウザを起動します。

このとき手順 3 の画面が表示された場合は、そのまま手順 3 へお進みください。

2　本商品の設定画面を表示します。

アドレス欄に「192.168.1.1」を入力し、Enter キーを押します。

ルータ機能が「無効」に設定されている場合や、本商品の LAN 側のアドレスが変更されている場合は、変更後の IP アドレスを入力してください。また、Windows の Internet Explorer でお気に入りに登録している場合は、お気に入りの「CG-WLBARAGND」をクリックします。

3　本商品にログインします。

ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名に「root」、パスワードは空欄のまま［ログイン］をクリックします。

工場出荷時の設定の場合で説明しています。P.40「3.1 本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」で変更した場合は、変更後の値を入力してください。

4　設定画面が表示されます。

以上で設定画面の表示は完了です。

1.2　無線 LAN セキュリティを設定するには

無線 LAN ではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されるおそれがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

セキュリティ設定は、通信相手の機能も同じセキュリティ機能を搭載している必要があります。設定の前に設定可能なセキュリティ機能をご確認ください。

1.2.1　本商品で設定できるセキュリティ機能

■ SSID（Service Set IDentifier）

無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSID と呼ばれることもあります。同じSSID を持つ無線 LAN 機器同士でしか通信ができないため、独自のSSID を設定することにより、外部からの不正侵入される危険が減少します。

工場出荷時の状態では、本体側面の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載された値となります。この値は、機体ごとに異なります。

■ステルス AP

本商品の SSID を、無線 LAN アダプタから行う接続検索に表示されないようにすることができます。これにより、外部からの不正侵入される危険が減少します。

本商品と同じ SSID を設定している無線 LAN アダプタからは、本商品の SSID を確認することができます。

■暗号化

無線 LAN 通信の通信内容を傍受されないように暗号化するセキュリティ機能です。

・WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bit の 2 種類があり、ASCII 文字（半角英数記号）や HEX（16 進数：0 ～ 9、a ～ f）を入力し暗号キーを作成します。

・WPA（Wi-Fi Protected Access）

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わる TKIP を採用しており、WEP よりも解読されにくくなります。本商品では、家庭で使用する「WPA-PSK（Personal）」と企業内で使用する「WPA-EAP（Enterprise）」の 2 つの設定ができます。

・WPA2（Wi-Fi Protected Access2）

WPA2 は Wi-Fi アライアンスが 2004 年 9 月に発表した新しい規格です。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128 ～ 152Bit の可変調キーを利用しての強力な暗号化が可能です。そのほかの仕様については WPA とほとんど変わらないため、WPA と WPA2 との混在した環境でご利用できます。

工場出荷時の状態では、WPA/WPA2-PSK があらかじめ設定されています。

■ WPS（Wi-Fi Protected Setup）

Wi-Fi アライアンスが 2007 年 1 月より認定を開始した規格です。プッシュボタンを押す、または PIN（Personal Identification Number）コードを入力するかのどちらかの方法で、無線 LAN アダプタをアクセスポイントに登録して SSID と WPA2 のセキュリティの設定を完了させます。接続方法は、付属の「お使いの手引き」または無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

1.2.2　SSID を設定する

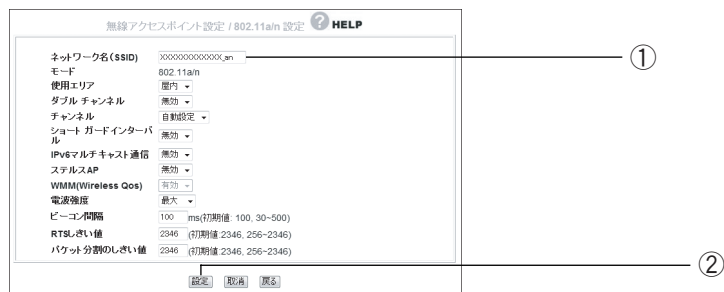
SSID は、次の手順で設定します。

1　**SSID を設定する設定画面を開きます。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11a/n 設定」または「802.11g/b 設定」の順にクリックします。

・設定画面はお使いの環境によって異なります。お使いの環境については、本商品と接続しているパソコンをお調べになるか、ネットワーク管理者にお尋ねください。

・本商品は工場出荷時から「802.11a/n」「802.11g/b」に SSID が設定されています。どちらか一方を変更されても、設定変更されていない方の SSID は、そのまま有効です。

2　次のように設定します。

画面は「802.11a/n 設定」の例です。お使いの環境によって多少画面は異なりますが、設定する手順は同じです。

①「ネットワーク名（SSID）」に設定したい文字列を半角英数および半角記号で入力します。

半角英数および半角記号で最大 32 まで入力できます。

②［設定］をクリックします。

3　設定変更後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　本商品に設定した SSID と同じ文字列を、接続する無線LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの SSID の設定については、ご使用の無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で SSID の設定は完了です。

1.2.3 ステルス AP を設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP は、次の手順で設定します。

1　ステルス AP を設定する設定画面を表示します。

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11a/n 設定」または「802.11g/b 設定」の順に選択します。

・設定画面はお使いの環境によって異なります。お使いの環境については、本商品と接続しているパソコンをお調べになるか、ネットワーク管理者にお尋ねください。
・ステルス AP は工場出荷時には「無効」に設定されています。「802.11a/n 設定」または「802.11g/b設定」のどちらか一方を「有効」に設定しても、設定変更されていない方のステルス AP は「無効」のままです。

2　次のように設定します。

画面は「802.11a/n 設定」の例です。お使いの環境によって多少画面は異なりますが、設定する手順は同じです。

①「ステルス AP」を「有効」にします。

②［設定］をクリックします。

3　設定画面変更後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上でステルス AP の設定は完了です。

1.2.4　アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線 LAN アダプタを、MAC アドレスで制限することができます。アクセス制限を設定するには、次の手順で行います。

1　**設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 設定」−「無線アクセスポイント設定」−「アクセス制限」の順に選択します。**

2　**次のように設定します。**

①「MAC アドレスフィルタリング」を「有効」にします。

②下に表示されるクライアントリストのうちで、アクセスを許可したい無線 LAN アダプタを搭載したパソコンにチェックを付けます。

許可したい無線 LAN アダプタ搭載したパソコンがクライアントリストに表示されない場合は、無線 LAN アダプタの MAC アドレスを手動で登録してください。設定項目の詳細については P.128「■ アクセス制限」をご覧ください。

③［設定］をクリックします。

3　**設定画面変更後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

以上でアクセス制限の設定は完了です。

1.2.5　暗号化を設定する

無線 LAN の通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。

・本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線 LAN アダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります、
・WEP と WPA または WPA2 との併用はできません。

■ WEP を設定する

WEP は、次の手順で設定します。

1　**WEP を設定する設定画面を表示します。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11a/n セキュリティ設定」または「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。

設定画面はお使いの環境によって異なります。お使いの環境については、本商品と接続しているパソコンをお調べになるか、ネットワーク管理者にお尋ねください。

セキュリティ設定は、個別に設定を変更することができます。

2　**次のように設定します。**

例として、画面は「802.11a/n セキュリティ設定」です。多少画面は異なりますが、設定する手順は同じです。

①「認証方式」から「Open System」または「Shared Key」を選択します。

②「暗号方式」から「WEP」を選択します。

③「暗号方式」から「64Bit-16 進数（0-9/a-f）10 桁」、「128Bit-16 進数（0-9/a-f）26 桁」、「64Bit-ASCII（半角英数記号）13 文字」のいずれかを選択します。

ASCII で入力できる半角英数記号および半角記号は、0 〜 9、a 〜 z、!”#$%&’()*+.-,/:;<>?@[¥]^_{¦} です。

④キー 1 〜キー 4 に手順 3 で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの 1 つを選択します。

「128Bit」を選択した場合は、キー 1 のみ使用することができます。

⑤［設定］をクリックします。

3　［ログアウト］をクリックします。

設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　無線 LAN アダプタの設定をします。

本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱い説明書をご覧ください。

以上で WEP の設定は完了です。

■ WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する

WPA-PSK、WPA2-PSK は、次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。**

・設定画面はお使いの環境によって異なります。お使いの環境については、本商品と接続しているパソコンをお調べになるか、ネットワーク管理者にお尋ねください。

・本商品は工場出荷時から「802.11a/n セキュリティ設定」、「802.11g/b セキュリティ設定」ともに WPA/WPA2-PSK のセキュリティが設定されています。どちらか一方の設定を変更したとしても、設定を変更していない方の設定は「有効」のままなので、安心してお使いいただくことができます。

2 **次のように設定します。**

例として、画面は「802.11a/n セキュリティ設定」です。多少画面は異なりますが、設定する手順は同じです。

①「認証方式」から「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA/WPA2-PSK」のいずれかを選択します。

②「暗号方式」から「自動（AES/TKIP）」、「AES」、「TKIP」のいずれかを選択します。

WAP2-PSK の暗号化は「AES」のみとなります。

③ WPA 共有キーの「ASCII 文字（8 ～ 63 文字)」を選択し、入力欄に半角英数字および半角記号で 8 ～ 63 文字の任意の文字列を入力します。

ASCII で入力できる半角英数記号および半角記号は、0 ～ 9、a ～ z、!”#$%&’()*+.-,/:;<>?@[¥]^_{|} です。

④［設定］をクリックします。

3 **設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

4 **本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。**

無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で WPA-PSK、WPA2-PSK の設定は完了です。

1.3　無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ・ネットワークスやイー・アクセス、NTT などのルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効にすることで、ルータ機能付きモデムの設定をそのままで本商品を無線アクセスポイントとしてお使いいただくことができます。

- ここで紹介する手順を行う前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信できるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。
- 本設定後に再度設定画面を表示させる場合は、P.8「1.1 設定画面を表示するには」の手順 2 でアドレス欄に「192.168.1.220」を入力してください。
- ルータ機能を無効にすると DHCP サーバの機能も停止します。本商品の DHCP サーバ機能を使用してパソコンの IP アドレスを取得している場合は､IP アドレスの取得方法を変更する必要がある場合があります。

1.3.1　ルータ機能スイッチで設定する

1　**パソコンの電源を切ります。**

2　**背面のルータ機能スイッチを OFF にします。**

本商品の電源を切り、背面のルータ機能スイッチを OFF にします。

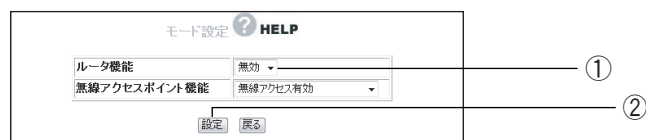
3　**電源を入れます。**

本商品、パソコンの順に電源を入れます。

1.3.2　設定画面で設定する

1　**設定画面を開きます。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「モード」を選択します。

2　**次のように設定します。**

①「ルータ機能」を「無効」にします。

②［設定］をクリックします。

3　**パソコンを再起動します。**

Web ブラウザを終了して、パソコンを再起動します。

以上で本商品の設定は完了です。

本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品の IP アドレスは自動的に「192.168.1.220」に変更されます。
本商品のルータ機能を再び有効にした場合、本商品の IP アドレスは自動的に「192.168.1.1」に変更されます。
本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品の WAN ポートは LAN ポートとして使用できます。

第 2 章

こんなときはこの設定（各種設定編）

この章では、本商品を便利により活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

2.1 ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP 設定や DMZ 設定などを行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますのでご注意ください。

2.1.1 UPnP に対応しているネットワークゲームの場合

本商品は UPnP に対応していますので、UPnP に対応したネットワークゲームの場合は自動的に本商品の設定が行われます。

UPnP（ユニバーサル プラグ アンド プレイ）機能は Windows Vista/XP で使用できます。

1 設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2 次のように設定します。

①「UPnP を使用する」から「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

3 設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

Windows の UPnP に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品の UPnP を設定する前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は Microsoft にお問い合わせください。

以上で設定は完了です。

2.1.2 UPnP に対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。**

2 **次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.104「○ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

②［設定］をクリックします。

3 **設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

DMZ 機能の対象になっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

2.2　音声 / ビデオチャットなどのツールを使うには

本商品に接続したパソコンで音声チャットやビデオチャットなどリアルタイムで送受信するソフトウエアを使用する場合は UPnP 機能または DMZ 機能を使用します。ここでは代表的なソフトとして、Windows Live Messenger、MSN Messenger、NetMeeting を利用する場合を説明しています。

Windows Live Messenger、MSN Messenger、Net Meeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

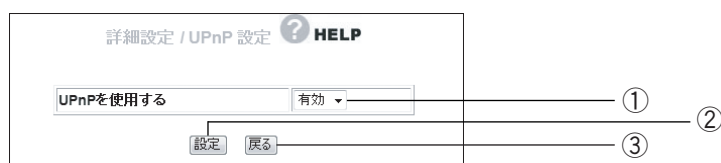
工場出荷時の状態では、UPnP 機能は有効、DMZ 機能は無効になっています。

2.2.1　Windows Live Messenger

Windows Live Messenger を使用する場合は UPnP 機能を有効にします。次の手順で設定してください。

Windows Live Messenger は Windows Vista/XP（SP2）に対応しています。

1　**設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。**

2　**次のように設定します。**

①「UPnP を使用する」から「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

3　**設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

以上で設定は完了です。

2.2.2 MSN Messenger（Ver.7.0 以降）

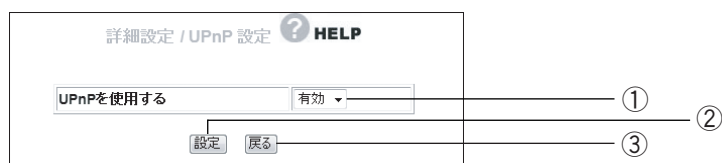
MSN Messengerを使用する場合は、お使いの環境によってUPnP機能またはDMZ機能を使用します。

■ Windows XP（ SP1）で使う

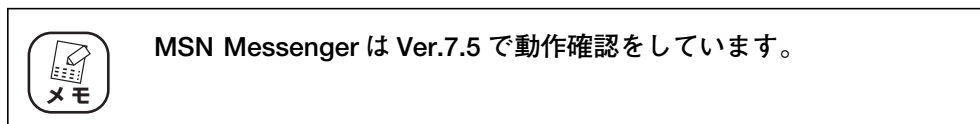
Windows XP（SP1）で MSN Messenger を使用する場合は、UPnP 機能を使用します。次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。**

2 **次のように設定します。**

①「UPnP を使用する」から「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

3 **設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

MSN Messenger は Ver.7.5 で動作確認をしています。

以上で設定は完了です。

■ Windows 2000/ME/98SE で使う

Windows 2000/ME/98SE では DMZ 機能を設定します。次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。**

2 **次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.104「○ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

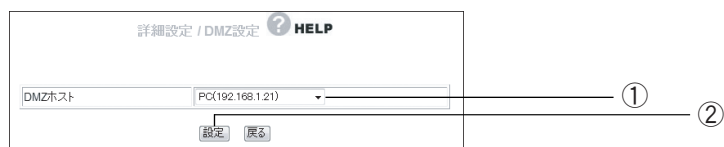
②［設定］をクリックします。

3 設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

2.2.3 Net Meeting

Net Meeting を使用するには DMZ 機能を設定します。次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。**

2 **次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.104「○ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

②［設定］をクリックします。

3 **設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。**

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

2.3 ポートを開放するには

2.3.1 バーチャル・サーバ（ポート開放）を使用する

バーチャル・サーバ機能を利用してポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。ポートの開放は次の手順で設定します。

1 **設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「バーチャル・サーバ（ポート開放）」の順に選択します。**

2 **次のように設定します。**

①「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.104「○ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。
設定するパソコンが IP自動取得の場合は、IP固定取得に変更されます。

②公開するサーバに合わせて「サービス」を設定します。

「ポート範囲」および「プロトコル」は、「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に設定します。
本書では例として Web サーバを公開する設定をしています。

③「備考」に任意の名前を入力します（本書では例として「WEB サーバ」を入力します）。

④［登録］をクリックします。

3 設定画面更新後に下に表示されるバーチャル・サーバリストに設定した内容が登録されたことを確認します。

4 画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

外部ネットワークカメラ（カメラサーバ）の映像を公開する

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した映像をインターネット上に配信することができます。その場合は、P.104「○ PC データベース」、P.28 ・P.134 「■ バーチャル・サーバ（ポート開放）」、P.37 ・P.98「■ ダイナミック DNS（DDNS）」などの設定を行う必要があります。

1 **詳しい解説を見る。**

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2008 年 2 月現在）。

URL : http://corega.jp/product/navi/ddns/

corega

2.4　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには

2.4.1　プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

マルチ PPPoE でフレッツ・スクウェアの設定を行うと、通常のプロバイダと「フレッツ・スクウェア」へ同時に接続することができます。

1　**「簡単設定」を選択します。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「簡単設定」を選択します。

2　**［次へ］をクリックします。**

3　**「手動」を選択し、［次へ］をクリックします。**

4　**「PPPoE(FLET´Sシリーズ)」を選択し、［次へ］をクリックします。**

5 接続情報を入力し、［次へ］をクリックします。

「接続ユーザ名」、「接続パスワード」、「パスワードの確認」を入力し、［次へ］をクリックします。

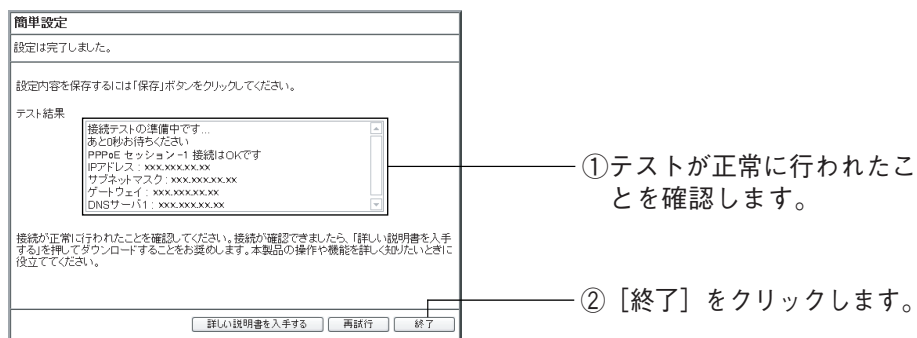
6 お使いの地域を選択して［次へ］をクリックします。

「東日本」または「西日本」から選択して［次へ］をクリックします。

7 接続テストを行います。

［保存］をクリックし、接続テストを行います。

8 ［終了］をクリックします。

接続テストが正常に行われたことを確認し、［終了］をクリックします。

以上で設定は完了です。

2.5　複数固定 IP サービスを利用するには（Unnumberd IP ／ Unnumberd IP ＋ Private IP）

各プロバイダが PPPoE 回線で提供する複数固定IP アドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定 IP アドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などを行うことができます。

2.5.1　Unnumberd IP

本商品に、グローバル IP のパソコンのみを接続する場合に設定します。

ここでは以下の設定を例に説明します。

・本商品の元の設定

IP アドレス：192.1681.1

サブネットマスク：255.255.255.0

・プロバイダからの設定情報

IP アドレス：「XXX.○○○.□□□.113 ～ XXX.○○○.□□□.120」

サブネットマスク：255.255.255.248

DNS サーバ 1：■■■.■■■.■■■.■■■

DNS サーバ 2：■■■.■■■.■■■.■■■

・設定するパソコンの IP アドレス

XXX. ○○○ . □□□ .115」

1　**Unnumberd IP の設定画面を開きます。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット)」を選択します。

2　**「PPPoE」－［セッション -1 設定］の順にクリックします。**

3　次のように設定します。

①「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。

②「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力します。

③「PPPoE サービス・タイプ」は [Unnumbered IP」を選択します。

④「ルータ IP は「XXX. ○○○ . □□□.114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初の IP アドレスはネットワークアドレスのため、次の IP アドレスが入ります）。

⑤「サブネットマスク」は「255.255.255.248」と入力します。

⑥「DNS サーバ」は「マニュアル設定」を選択し、「DNS サーバ 1」に「■■■ . ■■■ . ■■■ . ■■■」と入力します。

⑦［設定］をクリックします。

4　設定するパソコンの固定 IP アドレスを変更します。

設定するパソコンの固定 IP アドレスを次のように変更します。

・IP アドレスは「XXX.○○○ . □□□.115」と入力します（設定したいIP アドレス）。

・サブネットマスクは「255.255.255.248」と入力します。

・デフォルトゲートウェイは「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します（ルータ IP と同じ）。

・DNS サーバは「■■■ . ■■■ . ■■■ . ■■■」と入力します。

パソコンの TCP/IP の変更方法については P.56「3.7 パソコンの TCP/IP を設定するには」をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。

5 **本商品の設定画面を再度表示させせます。**

本商品の設定画面を再度表示させる場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定（インターネット)」で設定した「xxx. ○○○ . □□□ .114」と入力します。

以上で設定は完了です。

「**第 4 章**　設定画面について」の **P.88** 「■ PPPoE」もあわせてご覧ください。

2.5.2 Unnumbered IP ＋ Private IP

本商品にグローバル固定 IP のパソコンのほかにプライベート IP のパソコンを接続する場合に設定します。

1 **Unnumbered IP ＋ Private IP の設定画面を表示します。**

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット)」－「PPPoE」の順に選択し、[セッション -1 設定] をクリックします。

2 **PPPoE サービス・タイプを選択します。**

「PPPoE サービス・タイプ」は「Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択します。

3 **そのほかのルータの設定をします。**

そのほかのルータの設定は、**P.34** 「2.5.1 Unnumberd IP」と同じです。

パソコンの TCP/IP の変更方法については P.56 「3.7 パソコンの TCP/IP を設定するには」をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。

4 **本商品の設定画面を再度表示させせます。**

グローバル固定 IP を設定したパソコンから本商品の設定画面を表示させる場合は、Web ブラウザのアドレス欄に「WAN 側設定（インターネット)」で設定した「xxx. ○○○ . □□□ .114」を入力し、Enter キーまたは return キーを押します。

プライベート IP を使用するパソコンから本商品の設定画面を表示させる場合は Web ブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力し、Enter キーまたは return キーを入力します。

以上で設定は完了です。

「**第 4 章**　設定画面について」の **P.88** 「■ PPPoE」もあわせてご覧ください。

2.6　ダイナミック DNS を使用して URL で接続するには

本商品に接続したパソコンをバーチャル・サーバ（ポート開放）などでサーバ公開している場合、通常は接続のたびに変更されるグローバル IP にアクセスする必要がありますが、ダイナミック DNS を使用することで常に同じダイナミック DNS 名でアクセスすることができるようになります。

ダイナミック DNS を使用するには、次の手順で設定します。また、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できる必要があります。

1　**ダイナミック DNS サービスに登録する。**

ダイナミック DNS サービスに未登録の場合は、「corede.net」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）のいずれかのサービスに登録します。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2008 年 2 月現在）。

URL：http://corega.jp/product/navi/ddns/

本商品が対応するダイナミック DNS サービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」「@Net DDNS」のみとなります。

「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミック DNS サービスについては、コレガのサポート対象外となります。

「@Net DDNS」は @Net Home 会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ @Net Home 加入者サポートページよりダイナミック DNS サービスをお申し込みください。

2 ダイナミック DNS の設定画面を表示させる。

設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット)」－「ダイナミック DNS」の順に選択します。

3 次のように設定します。

①使用するダイナミック DNS を選択します。

②「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄にダイナミック DNS サービスに登録した情報を入力します。

③［設定］をクリックします。

ここでは以下の設定を例に説明します。

- **使用するダイナミック DNS**
  DynDNS.org
- **ドメイン名**
  coreddns.dynalias.net

4 ［ログアウト］をクリックします。

設定更新後、画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

「**第 4 章**　設定画面について」の **P.98**「■　ダイナミック DNS（DDNS）」もあわせてご覧ください。

第 3 章

こんなときはこの設定（サポート編）

3

この章は、本商品の各サポート機能およびお使いの環境の設定方法について説明しています。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

3.1　本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　**設定画面で「管理」を選択します。**

設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　**次のように設定します。**

①新しく設定するログイン名を入力します。

②新しく設定するパスワードを入力します。

③確認のため②で入力したパスワードを再度入力します。

④［設定］をクリックします。

3　**［ログアウト］をクリックします。**

設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

3.2　最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。

・更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
・ファームウェアをアップデートする前に P.47「3.3.1 バックアップを取る」をご覧になり、本商品の設定内容を控えておいてください。
・ファームウェアをアップデート中は、ほかの操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

3

3.2.1　ファームウェアをダウンロードする

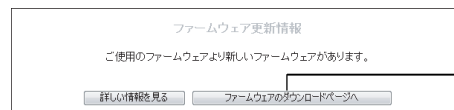
ファームウェアをアップデートする前に、お使いのファームウェアが最新のバージョンかどうかを確認します。

1　**「最新ファームウェアの確認」をクリックします。**

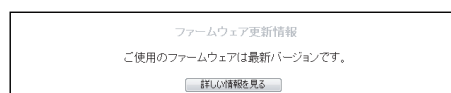
設定画面を表示し、「最新ファームウェアの確認」をクリックします。

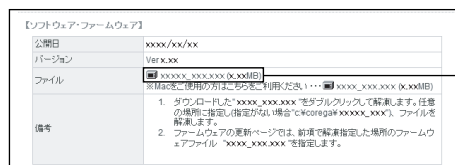
「最新ファームウェアの確認」をクリックします。

2　**［ファームウェアのダウンロードページへ］をクリックします。**

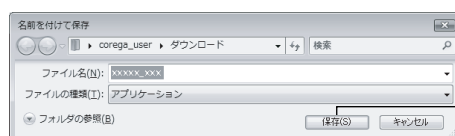
結果が表示されます。最新のファームウェアがある場合は、次の画面が表示されます。［ファームウェアのダウンロードページへ］をクリックします。

［ファームウェアのダウンロードページへ］をクリックします。

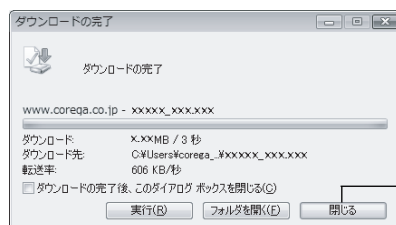
次の画面が表示された場合は、お使いのファームウェアは最新のバージョンです。この手順を行う必要はありません。

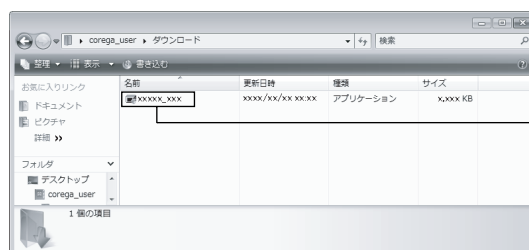
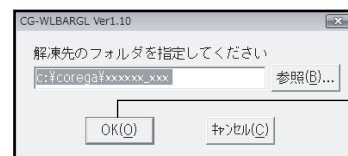
ファームウェア更新情報
ご使用のファームウェアは最新バージョンです。
詳しい情報を見る

3　ファームウェアのファイルをクリックします。

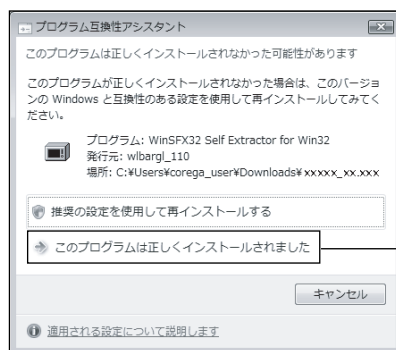
コレガホームページ内の本商品のファームウェアダウンロードページが表示されます。ファームウェアのファイルをクリックします。

Macintosh でお使いの場合は、「.sit」の拡張子のファイルをクリックしてダウンロードしてください。ダウンロード後、ファイルをクリックし、解凍してから P.45「3.2.2 ファームウェアをアップデートする」をご覧ください。

4　［保存］をクリックします。

5　保存先を指定し、［保存］をクリックします。

6 ［閉じる］をクリックします。

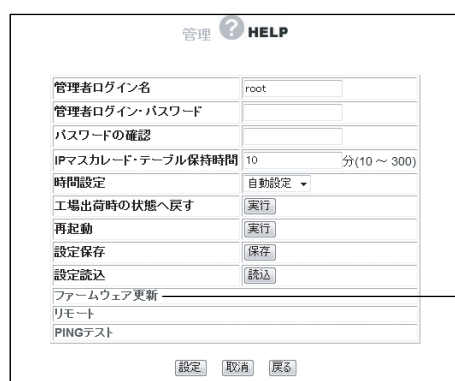
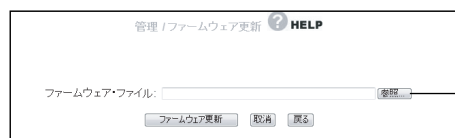
ファームウェアのダウンロードが完了すると次の画面が表示されます。［閉じる］をクリックします。

7 ファイルをクリック（ダブルクリック）します。

ファームウェアを保存したフォルダを開き、ダウンロードしたファイルをクリック（ダブルクリック）します。

8 ［実行］をクリックします。

9 ［OK］をクリックします。

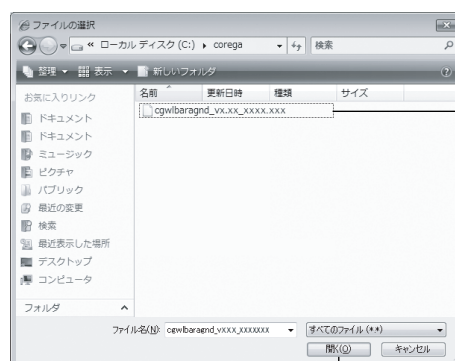
・標準の状態では、「C:¥corega」に解凍されます。解凍先を指定する場合は、[参照]をクリックして、解凍する場所を指定してください。
・Windows Vista では引き続き次の画面が表示されることがあります。その場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」をクリックしてください（弊社で動作を確認しています）。

「このプログラムは正しくインストールされました」をクリックします。

3.2.2　ファームウェアをアップデートする

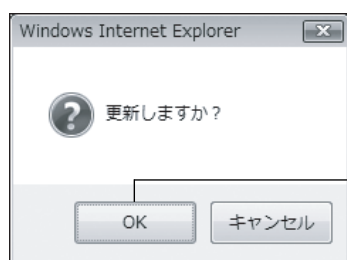
ここでは P.41「3.2.1　ファームウェアをダウンロードする」の手順に従って、「C:¥corega」という名前のフォルダに最新のファームウェアを保存した場合を例として説明しています。

1　**設定画面を起動し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。**

2　**「ファームウェア更新」をクリックします。**

3　**［参照］をクリックします。**

4　**ファームウェアファイルを開きます。**

「C:¥corega」内のファームウェアを選択し、［開く］をクリックします。

5　［ファームウェア更新］をクリックします。

6　［OK］をクリックします。

次の画面が表示されますので、［OK］をクリックし、ファームウェアのアップデートを開始します。

7　本商品を工場出荷状態に戻します。

アップデートが完了したら、初期化ボタンを 15 秒以上押して本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは **P.52**「3.5　本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」をご覧ください。

ファームウェアのアップデート後に工場出荷時の状態に戻すには、設定画面からではなく必ず本商品の背面の初期化ボタンを使用してください。

3.2.3　ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品のファームウェア以外のファイルを読み込ませた場合は再起動します。再起動後、本商品のファームウェアファイルを用意して再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

3.3　本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

バックアップしたファイルは、更新されたファームウェアのバージョンによって反映されない場合があります。

3.3.1　バックアップを取る

1　**設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。**

2　**「設定保存」の［保存］をクリックします。**

3　**［保存］をクリックします。**

「ファイルのダウンロード」のダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックします。

4　**［保存］をクリックします。**

「名前を付けて保存」のダイアログボックスが表示されますので、保存する場所を指定して［保存］をクリックし、ファイルを保存します。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

3.3.2　元に戻す

1　**［管理］画面を開きます。**

設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　**［読込］をクリックします。**

「設定読込」の［読込］をクリックします。

3　**［参照］をクリックします。**

次の画面が表示されますので、［参照］をクリックします。

4　**バックアップファイルを開きます。**

P.47「3.3.1　バックアップを取る」で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックします。

5　［読込］をクリックします。

6　設定が完了するまで待ちます。

「設定完了まであと xx 秒お待ちください。」と表示されますので、設定が完了するまでお待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。

以上で本商品の設定が元に戻りました。

3

3.4　本商品を再起動するには

本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

3.4.1　電源を入れ直す

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから抜き、その後再度差し込みます。

本商品が起動するまでおよそ 2 分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

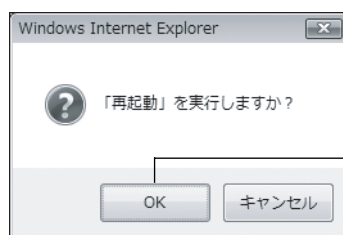
3.4.2　設定画面で再起動する

1　**「管理」画面を開きます。**

設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　**［実行］をクリックします。**

「再起動」の［実行］をクリックします。

3　**［OK］をクリックします。**

次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4　**設定が完了するまで待ちます。**

「起動完了まで xx 秒お待ちください。」と表示されますので、再起動するまでお待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。

以上で本商品が再起動しました。

3.5　本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいます。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、**P.47「3.3.1 バックアップを取る」****をご覧になり、設定のバックアップを取っておいてください。**

3.5.1　初期化ボタンを使う

1　初期化ボタンを押します。

本商品の電源がオンの状態で、背面にある初期化ボタンを 15 秒以上押し、離します。

初期化ボタンはクリップなど硬くて細いもので押してください。

2　本商品が起動を始めます。

3　ルータの起動を確認します。

前面の Power LED が点灯し、しばらくすると Status LED が点灯→消灯に変わり、ルータが起動したことを確認します。

以上で本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

3.5.2　設定画面を使う

1　［管理］画面を開きます。

設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　［実行］をクリックします。

「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］をクリックします。

3 ［OK］をクリックします。

次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4 設定が完了するまで待ちます。

「起動完了まであと xx 秒お待ちください。」と表示されますので、工場出荷時の状態に戻るまでお待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

3.6　パソコンの IP アドレスを調べたいときは

パソコンの IP アドレスを調べるには、次の方法で行ってください。Windows 以外の OS を使用している場合は、OS のヘルプや取扱説明書をご覧ください。

3.6.1　Windows Vista の場合

1　コマンドプロンプトを開きます。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

2　IP アドレスを表示させせます。

キーボードから「ipconfig」と入力して Enter キーを押します。パソコンの IP アドレスが表示されます。

3　IP アドレスを確認します。

「IPv4 アドレス」に記載されている IP アドレスを確認します。

3.6.2　Windows XP/2000 の場合

1　コマンドプロンプトを開きます。

「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000 の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

2 IP アドレスを表示させます。

キーボードから「ipconfig」と入力して Enter キーを押します。パソコンの IP アドレスが表示されます。

3 IP アドレスを確認します。

3.6.3 Windows Me/98SE の場合

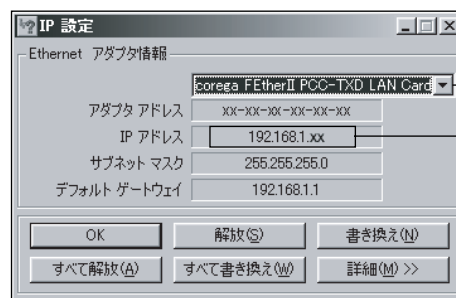
1 「ファイル名を指定して実行」を選択します。

「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。

2 IP アドレスを表示させます。

「名前」の欄に「winipcfg」を入力して［OK］をクリックします。

3 表示させた IP アドレスを確認します。

パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンの IP アドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックしたあとで、［書き換え］をクリックします。

3.7 パソコンの TCP/IP を設定するには

本商品に接続するパソコンは通常、ネットワークアダプタの TCP/IP が自動取得に設定された状態で使用します。本商品の設定画面が表示されない場合は、次の手順で TCP/IP の設定をご確認ください。

Windows Vista/XP/2000 では、「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については OS の取扱説明書をご覧ください。

3.7.1 Windows Vista の場合

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 **「コンピュータ」のプロパティを開きます。**

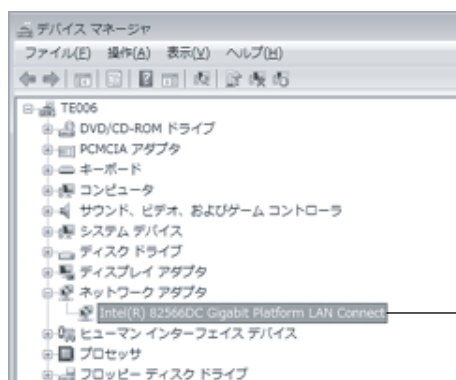
［スタート］をクリックし、「コンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選択します。

2 **「デバイスマネージャ」をクリックします。**

3 **［続行］をクリックします。**

「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

4 **「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**

5 **ネットワークアダプタを確認します。**

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

1　コントロールパネルを開きます。

［スタート］－「コントロールパネル」をクリックします。

2　「ネットワーク共有センター」を開きます。

「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」の順にクリックします（クラシック表示にしている場合は「ネットワーク共有センター」をクリックします）。

3　「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

画面左側から「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

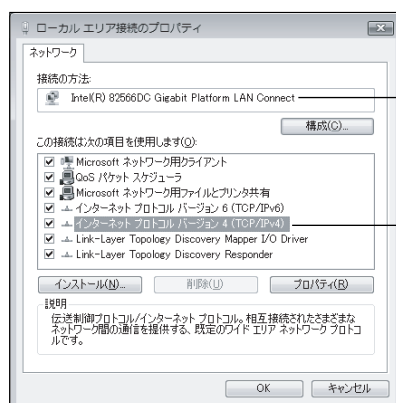
4　プロパティをクリックします。

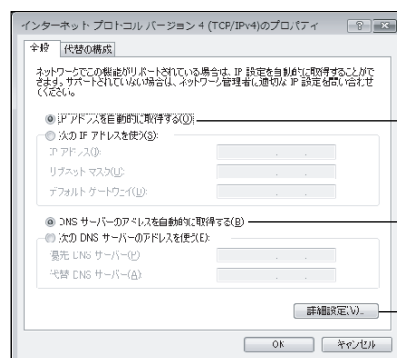
「ローカルエリア接続」（無線では「ワイヤレス ネットワーク接続」）を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

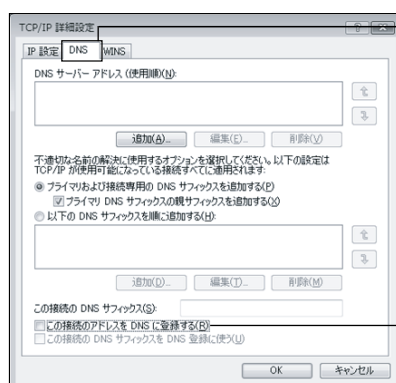
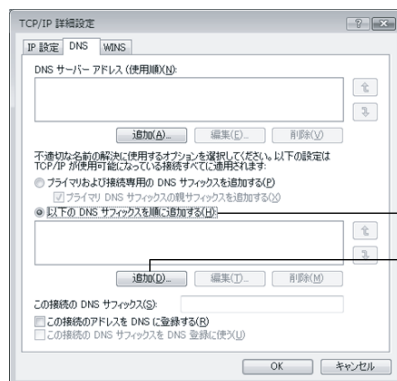
5　［続行］をクリックします。

6　TCP/IP を開きます。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

「この接続は次の項目を使用します」の一覧から「インターネット プロトコル バージョン４（TCP/IP)」をダブルクリックします。

7 ［詳細設定］をクリックします。

「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、［詳細設定］をクリックします。

8 チェックを外します。

「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメインを入力してください。

9　設定を完了させます。

［OK］をクリックし、「インターネット プロトコルバージョン 4（TCP/IP）のプロパティ」－「ローカル エリア接続のプロパティ」（無線の場合は「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」）の順に［OK］をクリックします。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

P.79「3.8 Web ブラウザの設定を調べたいときは」もあわせてご覧ください。

3.7.2　Windows XP の場合

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　「マイコンピュータ」のプロパティを開きます。

「スタート」−「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

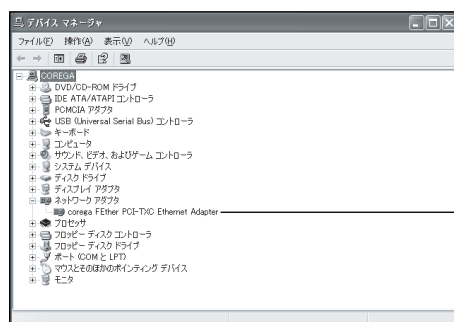
2　デバイスマネージャを開きます。

「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの確認をします。

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ。
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

5　「デバイスマネージャ」を閉じます。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

1　コントロールパネルを開きます。

「スタート」−「コントロールパネル」の順に選択します。

2　「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

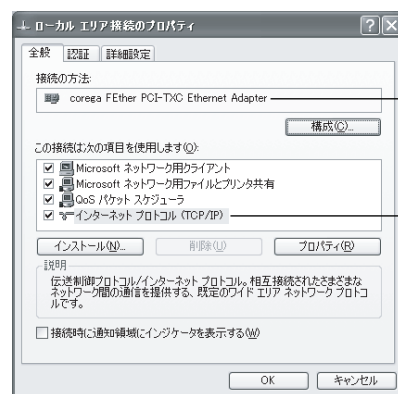
「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックします。

3 「ネットワーク接続」をクリックします。

4 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。

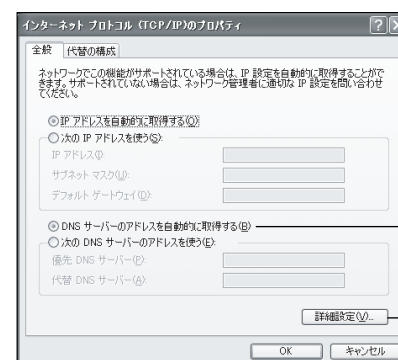
「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

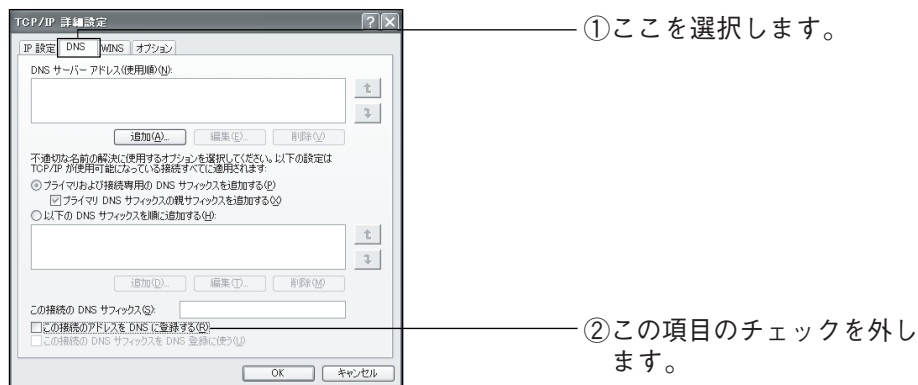
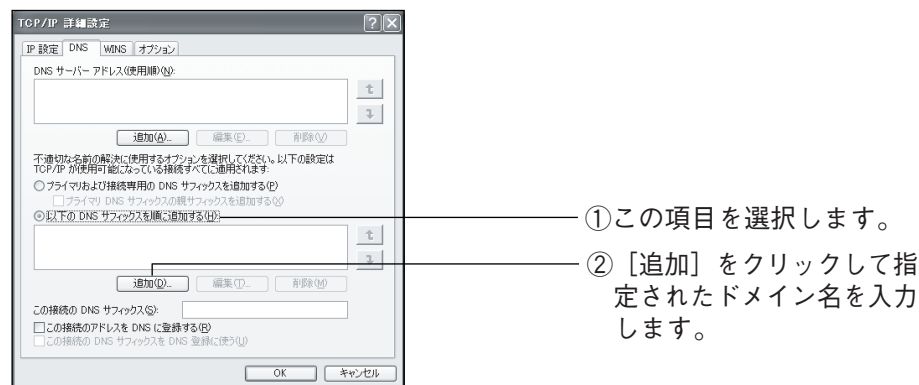
5 チェックが付いているか確認します。

「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが付いているか確認します。

6 TCP/IP のプロパティを開きます。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 ［詳細設定］をクリックします。

「全般」タブの「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8　チェックを外します。

「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNS に登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

9　設定を完了させます。

「TCP/IP 詳細設定」－「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」－「ローカルエリア接続のプロパティ」の順に [OK] をクリックします。

10 パソコンを再起動します。

再起動を促すメッセージ表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

P.79「3.8 Web ブラウザの設定を調べたいときは」もあわせてご覧ください。

3

3.7.3　Windows 2000 の場合

の作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　**「マイコンピュータ」のプロパティを開きます。**

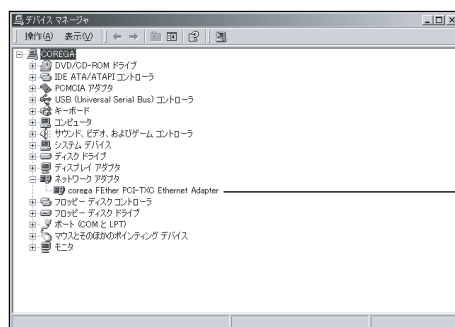
デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　**デバイスマネージャを開きます。**

「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　**「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**

「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　**ネットワークアダプタを確認します。**

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

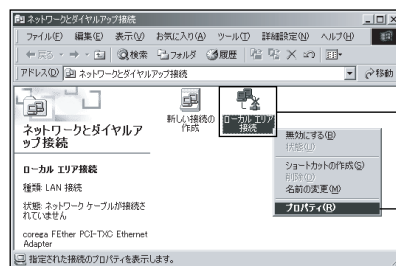
「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

5　**「デバイスマネージャ」を閉じます。**

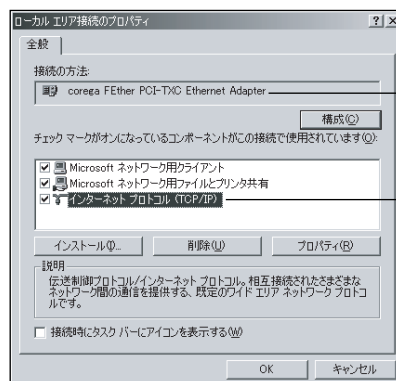
■ TCP/IP プロトコルを確認する

1　**「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開きます。**

「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　**「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。**

「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

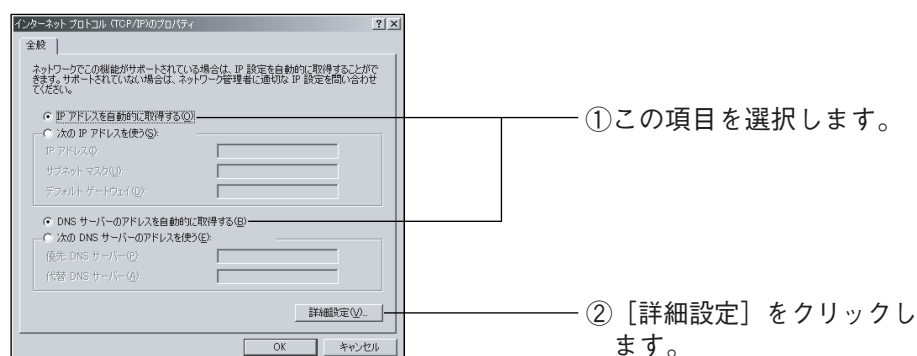
3　**TCP/IP を確認します。**

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、P.68「■ TCP/IP をインストールする」をご覧ください。

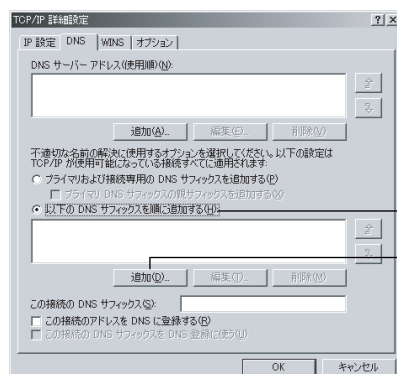
4　［プロパティ］をクリックします。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5　［詳細設定］をクリックします。

「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6　チェックを外します。

「TCP/IP 設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7　設定を完了します。

「TCP/IP 詳細設定」－「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」－「ローカルエリア接続のプロパティ」の順に [OK] をクリックします。

8　パソコンを再起動します。

再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

P.79 「3.8 Web ブラウザの設定を調べたいときは」もあわせてご覧ください。

■ TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1　「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開きます。

「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。

「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

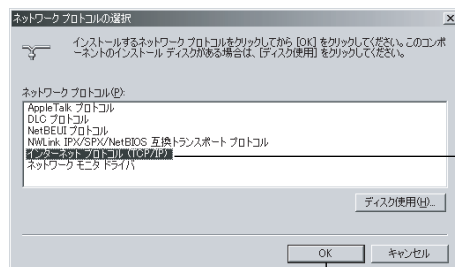
3　［インストール］をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」の［インストール］をクリックします。

4　［追加］をクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5　［OK］をクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6　［OK］をクリックします。

「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7　パソコンを再起動します。

再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、P.65「■　TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４からの設定を行ってください。

3.7.4　Windows Me/98SE の場合

■ネットワークアダプタの状態を確認する

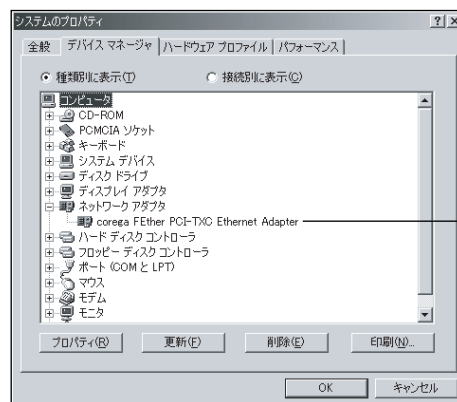
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　**「マイコンピュータ」のプロパティを開きます。**

デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　**「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。**

「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　**ネットワークアダプタを確認します。**

ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」､「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

ここでは例として Windows Me を使用していますが、Windows 98SE をお使いの場合も手順は同様です。

1　コントロールパネルを開きます。

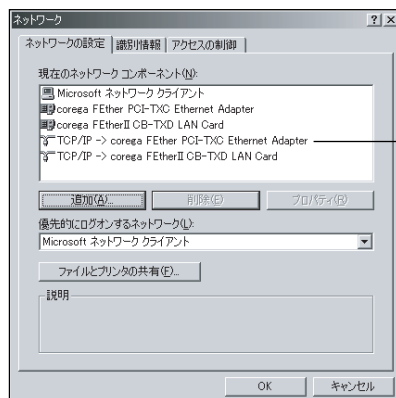
「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2　「ネットワーク」をダブルクリックします。

「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

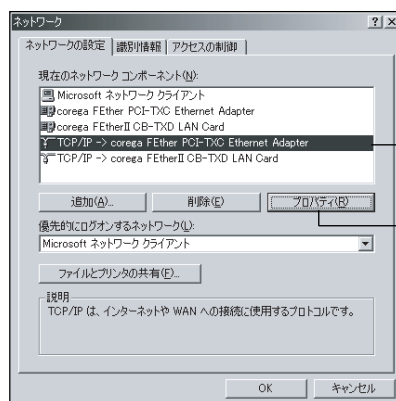
Windows Me をお使いの場合は、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されていることがあります。その場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されるようになります。

3　TCP/IP の表示を確認します。

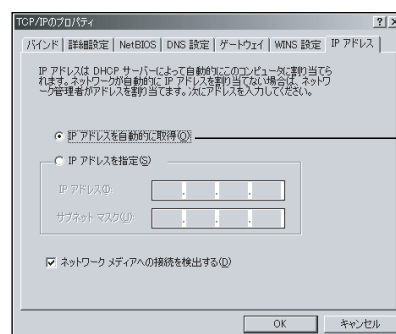
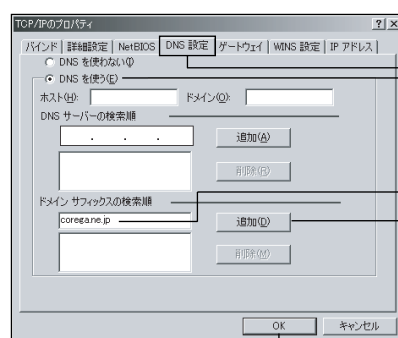
「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP －＞ xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

※画面は例です。
- 「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

「TCP/IP －＞ xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、P.72「■ TCP/IP をインストールする」をご覧ください。

4　［プロパティ］をっクリックします。

「現在のネットワークコンポーネントの一覧から「TCP/IP －＞ xxxxx（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「TCP/IP －＞ xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、お使いになりたいネットワークアダプタを選択します。

5　「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「DNS 設定」タブの「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6　**設定を完了します。**

「TCP/IP のプロパティ」－「ネットワーク」の順に［OK］をクリックします。

Windows の OS ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROM ドライブ（またはフロッピィディスクドライブ）に Windows OS ディスクを挿入し、メッセージをに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

P.79「3.8 Web ブラウザの設定を調べたいときは」もあわせてご覧ください。

■ TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1　**コントロールパネルを開きます。**

「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2　**「ネットワーク」をダブルクリックします。**

「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

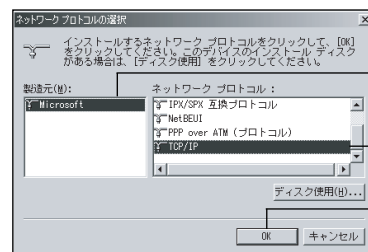
3 ［追加をクリックします。］

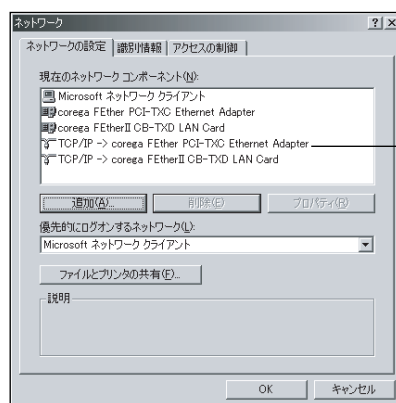
「ネットワーク」の［追加］をクリックします。

4 ［追加］をクリックします。

「ネットワークコンポーネントの種類の選択」で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 ［OK］をクリックします。

「ネットワークプロトコルの選択」の「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 TCP/IP を確認します。

「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞ xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確認します。

※画面は例です。
- 「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

7　パソコンを再起動します。

［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。Windows の OS ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROM ドライブ（またはフロッピィディスクドライブ）に Windows OS ディスクを挿入し、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

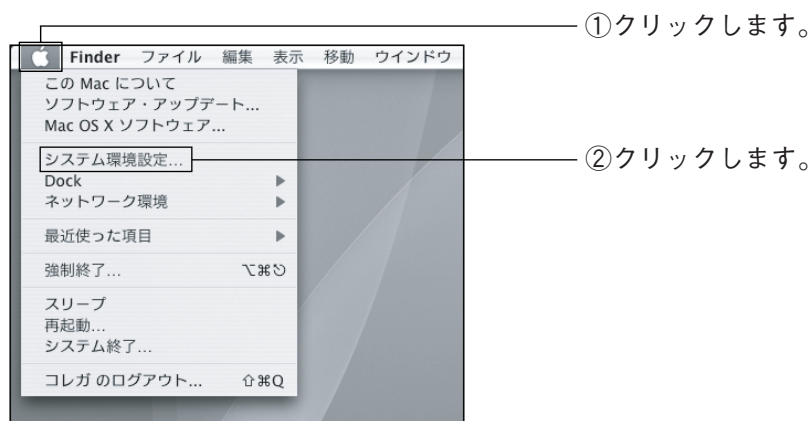
インストールが完了したら、**P.70**「■　TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４からの設定を行ってください。

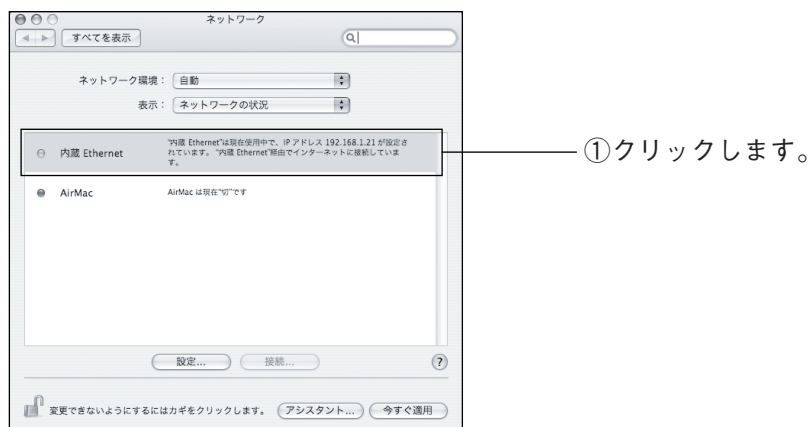
3.7.5 Macintosh の場合

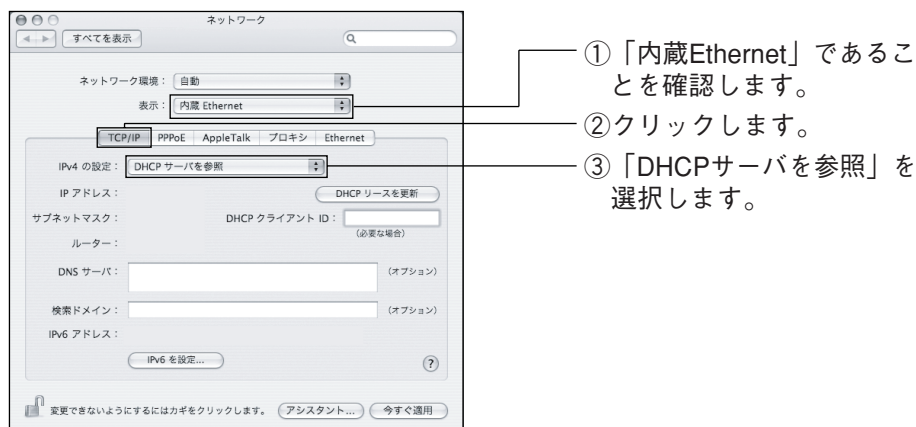
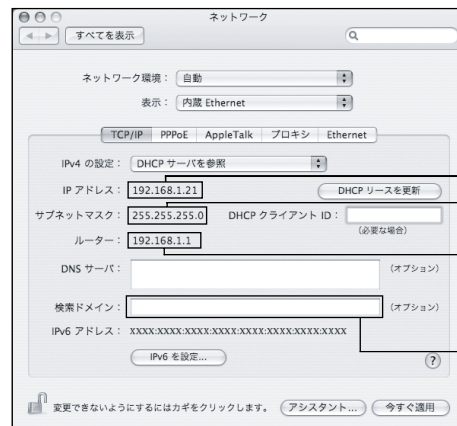
Mac OS X（10.3 ～ 10.4.X）に標準インストールされている Safari を使って、本商品の設定画面を表示する方法を説明します。本商品との接続方法については、付属のお使いの手引き「PART2　インターネットに LAN ケーブルで接続する」をご覧ください。

1 「システム環境設定」を開きます。

「アップルメニュー」－「システム環境設定」の順にクリックします。

3

2 「ネットワーク」をクリックします。

3　「内蔵 Ethernet」をクリックします。

4　「DHCP サーバを参照」を選択します。

「表示」が「内蔵 Ethernet」であることを確認し、「TCP/IP」タブの「IPv4 の設定」で「DHCP サーバを参照」を選択します。

5　「IP アドレス」と「サブネットマスク」、「ルータ」を確認します。

6　「Web プロキシ（HTTP)」のチェックを外します。

「プロキシ」タブの「Web プロキシ（HTTP)」のチェックを外します。

これで Mac OS X のネットワーク設定は完了しました。

■設定画面を表示する

1　Safari を起動します。

Dock の中の Safari をクリックして起動します。

2　ルータに接続します。

アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードのreturnキーを押します。

3　ルータにログインします。

「ユーザ名」に「root」と入力して、［ログイン］をクリックします。

以上で設定画面が表示されます。

3.8　Web ブラウザの設定を調べたいときは

本商品の設定画面が表示されない場合は、Web ブラウザの設定も確認します。ここでは Internet Explorer 7 の場合の設定方法を例に説明しています。そのほかの Web ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧いただき、設定してください。

1　**「インターネットオプション」を開きます。**

Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

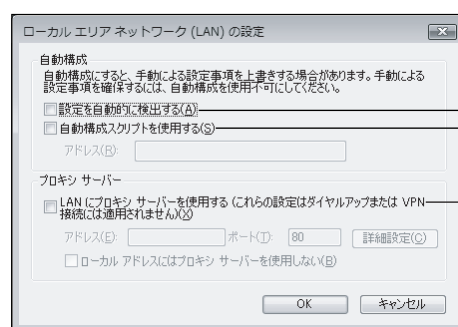
2　**「接続」タブを選択します。**

「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブを選択します。

このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。

3　**［LAN の設定］をクリックします。**

4　**チェックを外します。**

「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外します。

5　**［OK］をクリックします。**

6　**「インターネットオプション」の［OK］をクリックします。**

以上で Web ブラウザの設定は完了です。

第 4 章

設定画面について

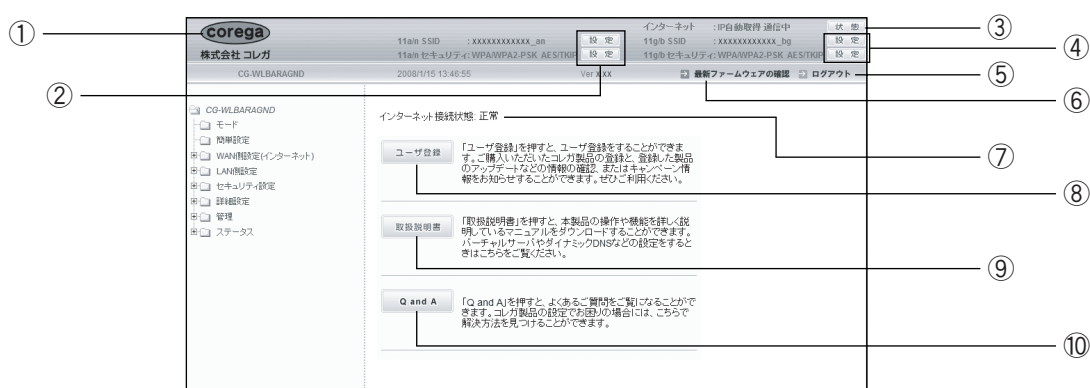
4

この章では、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報を知りたい」と思ったときは、この章で項目を探してください。

4.1 設定画面の各機能

・この章では例を使用して説明しています。実際にはお使いの環境に合った値を入力してください。
・各画面にある「HELP」をクリックすると、設定項目の説明が表示されます。
・各画面の例は、DHCP（IP 自動取得）接続の画面です。PPPoE 接続や IP 固定接続では、画面が例と異なる場合があります。

4.1.1 CG-WLBARAGND（トップページ）

インターネットに接続している場合の起動時の状態です。インターネットに接続していない場合は、P.85「4.1.3 簡単設定」を表示します。

①コレガロゴ

インターネットに接続時にクリックすると、コレガホームページを表示します。

② 802.11a/n ネットワーク名（SSID）／セキュリティ［設定］

クリックすると、それぞれ［802.11a/n 設定］、［802.11a/n セキュリティ設定］画面を表示します。

③インターネット［状態］

クリックすると、P.145「4.1.9 ステータス」を表示します。

④ 802.11g/b ネットワーク名（SSID）／セキュリティ［設定］

クリックすると、それぞれ［802.11g/b 設定］、［802.11g/b セキュリティ設定］画面を表示します。

⑤［ログアウト］

クリックすると設定画面からログアウトします。再度設定画面の操作をする場合は、ログイン後の画面で［再ログイン］をクリックします。

⑥［最新ファームウェアの確認］

インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

⑦インターネット接続状態

インターネットの接続状態を表示します。

⑧［ユーザ登録］

インターネット接続時にクリックすると、コレガのホームページからユーザ登録をすることができ、最新のコレガの製品情報をお知らせすることができます。

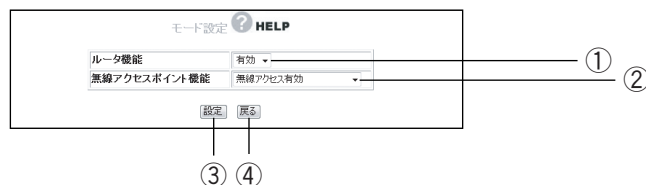
⑨［取扱説明書］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して「詳細設定ガイド」（本書）など各取扱説明書の最新版をダウンロードすることができます。

⑩［Q and A］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページのよくあるお問い合わせを表示します。

4.1.2 モード

「ルータ機能」と「無線アクセスポイント機能」のモード切り替えを設定できます。

①ルータ機能

ルータ機能の有効／無効を設定

・有効

ルータ機能を使用します（初期値）。

・無効

ルータ機能を使用しません。

②無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能の有効／無効を設定します。

・無線アクセス有効

無線アクセスポイント機能を使用します（初期値）。

・無線アクセス無効

無線アクセスポイント機能を使用しません。

・無線アクセス 802.11g/b 有効

802.11g/b の無線アクセスポイント機能のみを使用します。

・無線アクセス 802.11a/n 有効

802.11a/n の無線アクセスポイント機能のみを使用します。

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.82 「4.1.1 CG-WLBARAGND（トップページ）」に戻ります。

4.1.3 簡単設定

簡単にインターネット接続の設定ができます。設定の詳細については、付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットに LAN ケーブルで接続する」ー「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

4

4.1.4 WAN 側設定（インターネット）

WAN 側の通信方法を設定できます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①リンク速度

WAN 側ポートリンク方法を設定できます。

・自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half

WAN 側ポートのリンク方法を自動、100Mbps の Full Duplex、100Mbps の Half Duplex、10Mbps の Full Duplex、10Mbps の Half Duplex から選択します（初期値：自動）。

※通常は変更する必要はありません。WAN 側が正常にリンクできない場合はお試しください。

② MDI 切替

MDI の切替方法を設定できます。

・自動

MDI を自動で設定します（初期値）。

③接続方法

WAN 側通信の接続方法を設定できます。お使いの回線によって選択します。

・PPPoE

フレッツ・ADSL、B フレッツなどで接続する場合に選択します。設定画面の表示や設定項目については **P.88**「■ PPPoE」をご覧ください。

PPPoE の設定方法は、付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットに有線で接続する」－「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

マルチ PPPoE の設定方法は、**P.31**「2.4 マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」をご覧ください。

Unnumbered IPの設定方法は、**P.34**「2.5 複数固定IPサービスを利用するには（Unnumberd IP／Unnumberd IP＋Private IP)」をご覧ください。

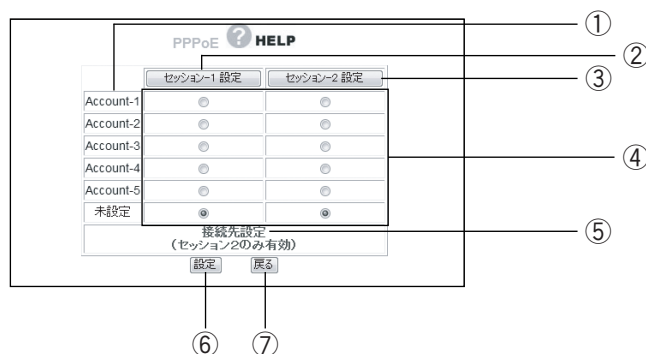
・**IP自動取得（DHCP）／IP固定**

Yahoo! BB、CATVなど、IPアドレスを自動取得する場合や、IPアドレスを固定で割り当てられている場合に選択します。詳しい設定画面は**P.96**「■ IP自動取得（DHCP）／IP固定」をご覧ください。

IP自動取得（DHCP）の設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットにLANケーブルで接続する」－「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

4

■ PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。

①アカウント名

アカウント名を表示します。表示する内容を **P.95** 「○ アカウント名変更」で変更することができます。

②［セッション -1 設定］

セッション -1 の設定を行います。表示される画面の状態および設定項目については **P.89** 「○ セッション -1 設定」をご覧ください。

③［セッション -2 設定］

セッション -2 の設定を行います。表示される画面の状態および設定項目については **P.89** 「○ セッション -1 設定」をご覧ください。

④アカウント選択

PPPoE アカウントとセッション -1、セッション -2 の組み合わせを設定します。

⑤接続先設定（セッション 2 のみ有効）

マルチ PPPoE を使用する場合にどの通信をセッション -1 で行い、どの通信をセッション -2 で行うかを設定します。詳しい設定画面は **P.93** 「○ 接続先設定」をご覧ください。

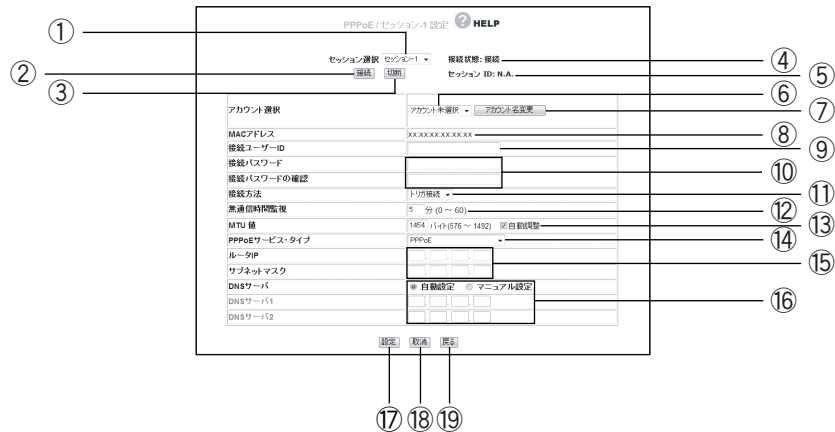
⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［戻る］

P.82 「4.1.1 CG-WLBARAGND（トップページ）」に戻ります。

○セッション -1 設定

セッション -1 の設定を行います。設定前にプロバイダから指定された「接続ユーザーID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

①セッション選択

設定したいセッションを選択します。P.88 「■ PPPoE」で［セッション -1 設定］をクリックした場合はセッション -1 が選択されています。

②［接続］

無通信時にクリックすると接続します。

③［切断］

通信中にクリックすると切断します。

④接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤セッション ID

セッション ID を表示します。

⑥アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録ができます（「セッション -1」で使用したアカウントは「セッション -2」で使用することはできません)。

アカウントを選択し、⑨〜⑯にプロパイダから指定された設定項目を設定します。

⑦［アカウント名変更］

「PPPoE」画面（前ページ）のアカウント選択で表示される名称を変更することができます。表示画面および設定項目については P.95「○ アカウント名変更」をご覧ください。

4

⑧ MAC アドレス

本商品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。

⑨接続ユーザー ID

プロバイダから指定されたアカウントの接続ユーザー ID を入力します。

⑩接続パスワード／接続パスワードの確認

プロバイダから指定されたアカウントの接続パスワードを入力し、再度確認のため同じパスワードを「接続パスワードの確認」に入力します。

⑪接続方法

接続開始の方法を設定します。

・常時接続

常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します。

・トリガ接続（初期値）

インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

・手動接続

［接続］をクリックしない限りインターネットに接続しません。

⑫無通信時間監視

インターネットへの通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を選定します（⑪で「トリガ接続」または「手動接続」を選択した場合のみ）。

⑬ MTU 値

MTU の値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けると MTU 値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと 576 ～ 1492 バイトの範囲で設定できます。通常は自動調整のままでお使いください。

⑭ PPPoE サービス・タイプ

使用する PPPoE のサービスタイプを選択します。

・PPPoE

通常の PPPoE 接続、またはセッション -2 を使用したマルチ PPPoE を利用する場合に設定します（セッション -2 使用不可）。⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」は設定しません。

・Unnumbered IP

複数のグローバル IP ※1 を割り当てるサービスを利用する場合に設定します（セッション -2 使用不可）。⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」に設定するグローバル IP は、本商品の IP アドレスとして WAN 側／ LAN 側 IP アドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバル IP を固定で設定します。

Unnubered IP の設定方法は **P.34** 「2.5　複数固定 IP サービスを利用するには（Unnumberd IP ／ Unnumberd IP ＋ Private IP)」をご覧ください。

※ 1　インターネットで使用される IP アドレスのことです。グローバル IP アドレスとも呼びます。

・Unnumbered IP ＋ Private IP

複数のグローバル IP を割り当てるサービスとプライベート IP※2 を同時に利用する場合に設定します（セッション 2 使用不可）。

複数のグローバル IP を割り当てるサービスを利用しつつ、IP マスカレード機能※3 を利用してプライベート IP のパソコンを接続することができます。グローバルIP をパソコンで使用する場合は、IP自動取得に設定します。

Unnumbered IP の設定方法は **P.34** 「2.5　複数固定 IP サービスを利用するには（Unnumberd IP ／ Unnumberd IP ＋ Private IP)」をご覧ください。

※ 2　イントラネットや LAN 組織内で自由に発行できる IP アドレスのことです。プライベート IP アドレスとも呼びます。

※ 3　1 つのグローバル IP を複数のパソコンで共有する機能（ルータ機能）です。プライベート IP とグローバル IP を相互に変換することで実現できます。

⑮ルータ IP ／サブネットマスク

複数固定 IP サービスでプロバイダから割り当てられたグローバル IP ／サブネットマスクを入力します（⑭で「Unnumbered IP および Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択した場合のみ)。

⑯ DNS サーバ

プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを設定します。

・**自動設定**

プロバイダから DNS サーバが自動的に割り当てられる場合に選択します。

※サーバの値は自動的に設定されます。

4

・マニュアル設定

プロバイダから DNS サーバが指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。DNS サーバが複数指定されている場合は DNS サーバ 1 および DNS サーバ 2 に入力します。

⑰［設定］

設定した内容を保存します。

⑱［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑲［戻る］

P.88 「■ PPPoE」に戻ります。

○**セッション -2 設定**

セッション -2 の設定を行います。

①セッション設定

設定したいセッションを選択します。P.88 「■ PPPoE」で［セッション -2 設定］をクリックした場合は、セッション -2 が選択されています。

※そのほかの項目はセッション -1 と同じ設定内容です。

○**接続先設定**

セッション 2 経由で通信するルールを設定します。

セッション 2 でフレッツ・スクウェアに接続する場合は、P.31 「2.4 マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」をご覧ください。

①設定リスト

③～⑨で設定した内容を表示します。

②［戻る］

P.88 「■ PPPoE」に戻ります。

③接続アカウント

ルールを適用するアカウントを選択します。

④ルール選択

ルールを選択します。

・ドメイン名

接続先をドメインで指定する場合に選択します。

⑤「ドメイン名」に入力します。

・IP アドレス

接続先を IP アドレスで指定する場合に選択します。

⑥「IP アドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

4

・ポート番号

接続先をポート番号で指定する場合に選択します。

⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク

接続先をネットワークで指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・IP アドレス＋ポート番号

接続先を IP アドレスとポート番号で使用する場合に選択します。

⑥「IP アドレス」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク＋ポート番号

接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ドメイン名

④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

⑥ IP アドレス

④「ルール選択」で「ネットワーク」および「IP アドレス＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ネットワーク

④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧開始ポート／終了ポート

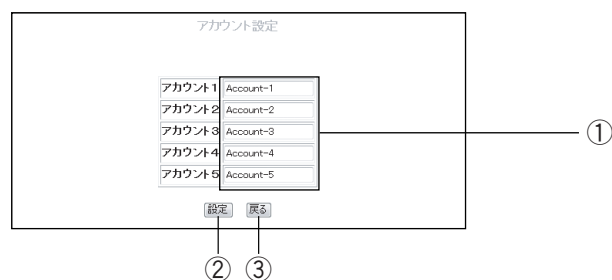
④「ルール選択」で「ポート番号」、「IP アドレス＋ポート番号」、「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑨プロトコル

④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「ALL（TCP/UDP/ICMP)」、「TCP」、「UDP」から選択できます。

⑩［登録］

入力した内容を登録します。

○アカウント名変更

①アカウント名

アカウント名を入力します。

②［設定］

入力したアカウント名に変更します。

③［戻る］

設定をせず P.89 「○ セッション -1 設定」に戻ります。

4

■ IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

① MAC アドレス

本商品の WAN 側の MAC アドレスを表示します。

②タイプ

IP アドレスの取得方法を選択します。

・IP 自動取得（DHCP）

プロバイダから IP アドレスを指定されていない場合に選択すると、プロバイダから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS アドレスなどのインターネットに必要な情報を取得します。

・IP 固定

プロバイダから IP アドレスを指定された場合に選択します。「WAN 側 IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します（「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。

③ドメイン名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②で「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ表示されます）。

④コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②で「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ表示されます）。

⑤ MTU 値

576 から 1500 までの範囲で割り当てることができます。接続環境にあわせて変更してください。

⑥ DNS サーバ

プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。

・自動設定

DNS サーバの IP アドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。

・マニュアル設定

プロバイダより DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合に選択し、IP アドレスを「DNS サーバ 1」、「DNS サーバ 2」に入力します。

⑦［設定］

設定した内容を保存します。

⑧［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑨［戻る］

P.82 「4.1.1 CG-WLBARAGND（トップページ）」に戻ります。

4

■ダイナミック DNS（DDNS）

インターネット側から IP アドレスではなく、URL（ドメイン名）を使用して LAN 内のバーチャルサーバで設定したパソコンに接続できるように設定できます。この機能を使用すると、IP アドレスが固定されないサービスでも設定したドメイン名でサーバ公開できます。

①ダイナミック DNS

利用する DNS サービスを選択します。

②ログイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したログイン名を入力します。

③ログインパスワード

ダイナミック DNS サービスに登録したパスワードを入力します。

④ドメイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤ IP チェック時間

取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を指定時間で確認します。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

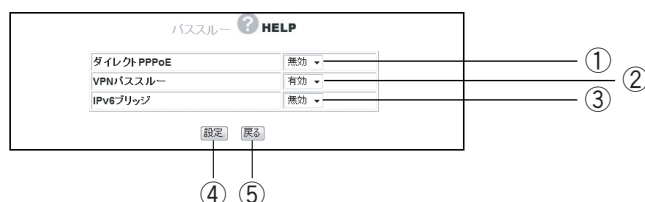
⑦［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.86「4.1.4 WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

■パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

①ダイレクト PPPoE

PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。

・有効

ダイレクト PPPoE を有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 PPPoE 接続する場合に有効にします。

・無効

ダイレクト PPPoE を無効にします（初期値）。

② VPN パススルー

VPN パススルーの有効／無効を選択します。

・有効

VPN パススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 VPN 接続する場合に有効にします（初期値）。

・無効

VPN パススルーを無効にします。

③ IPv6 ブリッジ

IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

・有効

IPv6 ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 IPv6 接続する場合に有効にします。

・無効

IPv6 ブリッジを無効にします（初期値）。

④［設定］

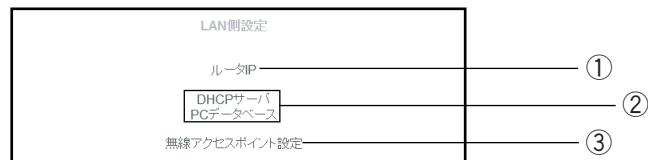
設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

P.86「4.1.4 WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

4

4.1.5　LAN 側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

①ルータ IP

P.100「4.1.5　LAN 側設定」を変更できます。

② DHCP サーバ／ PC データベース

DHCP サーバ機能や、**P.104**「○　PC データベース」の設定を変更できます。

③無線アクセスポイント設定

P.107「■　無線アクセスポイント設定」を変更できます。

■ルータ IP

LAN 側の設定を変更したい場合に設定します。

① MAC アドレス

本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。

② LAN 側 IP アドレス

本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 から 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。

※工場出荷時の状態は「192.168.1.1」に設定されています。

③サブネットマスク

本商品の LAN 側のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ~ 255」までの数字と「.」(ドット)で入力します。

※工場出荷時の状態は「255.255.255.0」に設定されています。

④ URL ホーム

設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面のトップページを表示させることができます。

※工場出荷時の状態は「corega.home」に設定されています。

アドレスには「.」(ドット)を組み込んで3~24文字以内で設定します。「.」(ドット)はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。

⑤[設定]

設定した内容を保存します。

⑥[取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑦[戻る]

P.100「4.1.5 LAN 側設定」に戻ります。

■ DHCP サーバ／ PC データベース

○ DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更する場合に各項目の設定をします。

① DHCP サーバ

DHCP サーバの有効／無効を選択します。

・有効

DHCP サーバ機能を使用します（初期値）。

・無効

DHCP サーバ機能を使用しません。

②リース期限継続方法

DHCP サーバでリースされる IP アドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／未期限の指定ができます。

・期限指定

DHCP サーバから割り当てられる IP アドレスを定期的に更新します（初期値）。

期限は③「リース期限」で設定します。

・無期限

DCP サーバから割り当てられる IP アドレスに期限を設定しません。

③リース期限

DHCP サーバでリースされる IP アドレスのリース期限を分単位で指定します（初期値：2 日）。

※②で期限指定を選択している場合に設定できます。

④ DHCP 開始アドレス

DHCP サーバが割り当てる最初の IP アドレスを入力します（初期値：192.168.1.21）。

⑤ DHCP 終了アドレス

DHCP サーバが割り当てる最後の IP アドレスを入力します（初期値：192.168.1.50)。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.100「4.1.5 LAN 側設定」に戻ります。

○ PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンを登録することができます。IP アドレスを自動的に取得するパソコンは自動的に登録されます。この操作は PC データベースのリストに表示されていない場合や、IP アドレスを固定設定しているパソコンに行います。

①編集

登録済みのクライアントパソコンの設定を変更することができます。

②［追加］

P.105「○ PC データベース（詳細設定）」を表示し、パソコンを手動で PC データベースに追加できます。

③［再読み込み］

現在の情報を更新します。

○ PC データベース（詳細設定）

手動で PC データベースに登録することができます。

①パソコン名

クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。

② IP アドレス

IP アドレスの取得方法を選択します。

・自動取得（DHCP クライアント）

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面（前ページ）で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます（初期値）。IP アドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していたあとで再接続した場合に変わることがあります。

・固定取得（DHCP クライアント）

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面（前ページ）で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます。パソコンに毎回決まった IP アドレスを割り当てたい場合に選択します。最後の空欄に、本商品の DHCP サーバ機能で設定した範囲内で 1 ～ 254 の任意の数字を入力します。（初期値 21 ～ 50）

・固定設定（DHCP 範囲以外）

パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合に選択します。パソコンに設定している IP アドレスを入力します。

・接続タイプ

本商品とパソコンの接続方法を選択します。有線で接続しているパソコンは「LAN」を、無線で接続しているパソコンは「WLAN」を選択します。

③ MACアドレス

MACアドレスの登録方法を選択します。

・自動検索（パソコンが接続されている状態）

①「パソコン名」と②「IP アドレス」の設定から登録したいパソコンのMACアドレスを自動取得します。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MACアドレス欄に検索されたMACアドレスが表示されます。

・MACアドレス

登録したいパソコンのMACアドレスがわかる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録することができます。

MAC アドレスは「ハードウェアアドレス」や、「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを識別するためにMACアドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録することはできません。

④［PCデータ追加］

本商品のリストに新しいパソコンを加えます。

⑤［データの削除］

画面上で入力した値をクリアすることができます。

⑥［戻る］

P.102「■ DHCPサーバ／PCデータベース」に戻ります。

■無線アクセスポイント設定

無線 LAN のネットワーク名（SSID）や、セキュリティなどの詳細な設定を行います。

本商品の無線アクセスポイント機能が無効の場合は表示されません。

① Wi-Fi Protected Setup

P.108 「○　Wi-Fi Protected Setup」の設定を行います。

② 802.11a/n 設定

P.109 「○　802.11a/n 設定」の設定を行います。

③ 802.11g/b 設定

P.113 「○　802.11g/b 設定」の設定を行います。

④ 802.11a/n セキュリティ設定

P.116 「○　802.11a/n セキュリティ設定」を行います。

⑤ 802.11g/b セキュリティ設定

P.119 「○　802.11g/b セキュリティ設定」を行います。

⑥アクセス制限

P.123 「○　アクセス制限」で無線 LAN アダプタ（パソコン）による無線アクセスの可否の設定を行います。

⑦マルチ AP 設定

P.125 「○　マルチ AP 設定」でセカンドSSID のセキュリティ設定を行います。

○ Wi-Fi Protected Setup

無線機器間のセキュリティを簡単に設定できる Wi-Fi Protected Setup の設定を表示します。Wi-Fi Protected Setup は対応機種のみ使用できます。通常は設定画面で設定を変更する必要はありません。Wi-Fi Protected Setup で無線セキュリティを設定する場合は、付属の「お使いの手引き」または Wi-Fi Protected Setup 対応機種に付属の「無線クライアントユーティリティ　詳細設定ガイド」をご覧ください。

Wi-Fi Protected Setup に対応する無線 LAN アダプタに関する最新情報は、コレガホームページ（http://corega.jp/）をご覧ください。

・Wi-Fi Protected Setup 有効時

・Wi-Fi Protected Setup 無効時

○ 802.11a/n 設定

IEEE802.11a/n 通信の設定を行います。

4

①ネットワーク名（SSID）

無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定します。

※工場出荷時の SSID は本商品左側面の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。

②モード

802.11 のモード名が表示されています。

③使用エリア

お使いのパソコンを使用する場所によって設定を変更します。

- **IEEE802.11a（W52/W53）は電波法により屋外で使うことを禁止されています。**
- **IEEE802.11a/n の設定で、屋外から本商品にお使いのパソコンで接続する場合は、使用エリアを「屋外」に設定してください。使用エリアを「屋外」に設定した場合は、IEEE802.11a（W56）で接続するようになります。**

・屋内（初期値）

お使いのパソコンを屋内のみで使用する場合に設定します。

・屋外

お使いのパソコンを屋外で使用して、本商品に接続する場合に設定します。

④ダブルチャンネル

２つのチャンネルを束ねて使う 40MHz 幅のダブルチャンネルを設定します。

ダブルチャンネルを使うことで、従来の無線 LAN アダプタをお使いの場合、またはほかの電子機器との電波干渉により、パフォーマンスが落ちる可能性があります。お使いの環境に合わせて設定をしてください。

・無効（初期値）

ダブルチャンネルを使わず、従来の 20MHz 周波数帯域の無線 LAN 通信のみを行います。

・自動

お使いの環境が 40MHz 幅のダブルチャンネルに対応している場合は、自動的に 40MHz に設定されます。ダブルチャンネルは２つの異なるチャンネルを使用します。チャンネルは⑤「チャンネル」で値を設定すると、自動的に「拡張チャンネル」にもう一つのチャンネルが設定されます。

⑤チャンネル

使用する電波の周波数（無線チャンネル）を「自動設定」または「36 ～ 140」チャンネルで選択できます。

・④ダブルチャンネルの設定を「自動」に設定している場合のみ、拡張チャンネルが表示されます。

・拡張チャンネルは、チャンネルの相互干渉が起きないように、チャンネル設定に応じて自動で設定されるため、手動で設定することはできません。

・自動設定（初期設定）

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します。

・36 ～ 140

チャンネルを設定、固定したい場合に 36 ～ 140 チャンネルのいずれかを選択します。

※通常は変更する必要はありません。

⑥ショートガードインターバル

802.11n と 802.11a が混在している環境で 802.11n を優先して送受信し、802.11n の通信効率を向上させます。

ほかの通信機器の通信速度などのパフォーマンスが低下する可能性があります。

・**有効**

802.11n を優先して送受信します。

・**無効（初期値）**

ショートガードインターバルを使用しません。

⑦ **IPv6 マルチキャスト通信**

IPv6 マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

・**有効**

IPv6 マルチキャスト通信サービス（4th メディアなど）を使用する場合に選択します。

・**無効**

IPv6 マルチキャスト通信を使用しません（初期値）。

⑧**ステルス AP**

無線 LAN アダプタを持つパソコンから本商品の SSID を検索されないようにしたり、SSID を「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・**有効**

ステルス AP を有効にします。

・**無効**

ステルス AP を無効にします（初期値）。

⑨ **WMM（Wireless Qos）**

WMM（Wi-Fi Multimedia）の有効／無効を設定することができます。

・**有効**

映像や音声のストリーミングデータの通信帯域を確保し、ストリーミングデータの受信効率を向上させます。

・**無効**

WMM を使用しません（初期値）。

⑩電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」(初期値)、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます。

※通常は変更する必要はありません。

⑪ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を「30 ～ 500」で設定できます（初期値：100）。

※通常は変更する必要はありません。

⑫ RTS しきい値

無線 LAN のパケットを送信する前に送信する RTS（送信要求）パケットのしきい値を「256 ～ 2346」で設定できます（初期値：2346）。

※通常は変更する必要はありません。

⑬パケット分割のしきい値

無線 LAN のパケットを分割するしきい値を「256～2346」で設定できます（初期値：2346）。

※通常は変更する必要はありません。

⑭［設定］

設定した内容を保存します。

⑮［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前に状態に戻します。

⑯［戻る］

P.107 「■ 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

○ 802.11g/b 設定

802.11g/b 通信の設定を行います。

①ネットワーク名（SSID）

無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定します。

※工場出荷時の SSID は本商品左側面の「ネットワーク名（SSID/MAC)」に記載されています。

②モード

802.11g/b の動作モードを設定できます。

・802.11g/b

802.11g または 802.11b を使用できます（初期値)。

・802.11g

802.11g のみを使用できます。

・802.11b

802.11b のみを使用できます。

③転送レート

転送レート（無線 LAN の通信速度）を「自動設定」、（1 ～ 54Mbps）で変更できます（初期値：自動設定)。

※通常は変更する必要はありません。

④チャンネル

使用する電波の周波数（無線チャンネル）を「自動設定、1 ～ 13 チャンネル」で選択できます。

・自動設定（初期値）

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します。

4

・1～13

チャンネルを指定・固定したい場合に 1 ～ 13 チャンネルのいずれかを選択します。

※通常は変更する必要はありません。

⑤ IPv6 マルチキャスト通信

IPv6 マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

・有効

IPv6 マルチキャスト通信サービス（4th メディアなど）を使用する場合に選択します。

・無効

IPv6 マルチキャスト通信を使用しません（初期値）。

⑥ステルス AP

無線 LAN アダプタを持つパソコンから本商品の SSID を検索されないようにしたり、SSID を「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・有効

ステルス AP を有効にします。

・無効

ステルス AP を無効にします（初期値）。

⑦ WMM（Wireless Qos）

WMM（Wi-Fi Multimedia）の有効／無効を設定することができます。

・有効

映像や音声のストリーミングデータの通信帯域を確保し、ストリーミングデータの受信効率を向上させます。

・無効

WMM を使用しません（初期値）。

⑧電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」（初期値）、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます。

※通称は変更する必要はありません。

⑨ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を「20 ～ 1000」で設定できます（初期値：100)。

⑩ RTS しきい値

無線 LAN のパケットを送信する前に送信する RTS（送信要求）パケットのしきい値を「256 ～2346」で設定できます（初期値：2346)。

※通常は変更する必要はありません。

⑪パケット分割のしきい値

無線 LAN のパケットを分割するしきい値を「256～2346」で設定できます（初期値：2346)。

※通常は変更する必要はありません。

⑫［設定］

設定した内容を保存します。

⑬［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑭［戻る］

P.107 「■ 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

○802.11a/n セキュリティ設定

802.11a/n 通信のセキュリティ設定を行います。

①認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

- **Open System**

  無線セキュリティを使用しない、または WEP を使用する場合に選択します。

- **Shared Key**

  WEP を使用する場合に選択します。

- **WPA-EAP**

  WPA-EAP のみを使用する場合に選択します。

- **WPA-PSK**

  WPA-PSK のみを使用する場合に選択します。

- **WPA2-EAP**

  WPA2-EAP のみを使用する場合に選択します。

- **WPA2-PSK**

  WPA2-PSK のみを使用する場合に選択します。

- **WPA/WPA2-EAP**

  WPA2-EAP または WPA-EAP を使用する場合に選択します。

- **WPA/WPA2-PSK**

  WPA2-PSK または WPA-PSK を使用する場合に選択します（初期値）。

②暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・無効

Open System を使用する場合に選択できます。

無線セキュリティを使用しません。

・WEP

Open System または Shared Key を使用する場合に選択できます。

暗号化に WEP を使用します。

・自動（AES/TKIP）

WPA-PSK、WPA2-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES または TKIP を使用します（初期値）。

・AES

WEP2-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES を使用します。

・TKIP

WPA-PSK、WPA-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に TKIP を使用します。

※ AES ＞ TKIP ＞ WEP の順番で暗号の解読が困難になります。

③暗号化

WEP を選択した場合に、暗号強度を 64Bit、128Bit の 16 進数または ASCII 文字列から選択します。

④ WEP キー

暗号化の選択後、WEP キー（暗号化）を入力し、「キー 1 ～ 4」から 1 つを選択します。「キー 1 ～ 4」のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力します。

⑤ WPA 共有キー

WPA/WPA2-PSK と WPA2-PSK を選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意のキーを「ASCII 文字（8 ～ 63 文字」（初期値）または「16 進数（64 文字)」で入力します。

⑥ DTIM

DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を 1 ～5」の間で設定します（初期値：1）。

⑦更新間隔

WPA 共有キーの更新間隔を「0 ※、300 ～ 1800 秒」で設定します（初期値：300）。

※更新間隔を 0 にした場合は、WPA 共有キーを更新しません。

⑧セキュリティ サーバ

①で「WPA/WPA2-EAP」、「WP2-EAP」、「WPA-EAP」のいずれかを選択した場合に「RADIUS サーバ設定」がクリックできるようになります。［RADIUS サーバ設定］をクリックすると **P.122**「○ RADIUS サーバ設定」が表示されます。

⑨［設定］

設定した内容を保存します。

⑩［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑪［戻る］

P.107「■ 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

⑫［セキュリティ情報書出し］

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

○ 802.11g/b セキュリティ設定

802.11g/b 通信のセキュリティ設定を行います。

①認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

・Open System

無線セキュリティを使用しない、または WEP を使用する場合に選択します。

・Shared Key

WEP を使用する場合に選択します。

・WPA-EAP

WPA-EAP のみを使用する場合に選択します。

・WPA-PSK

WPA-PSK のみを使用する場合に選択します。

・WPA2-EAP

WPA2-EAP のみを使用する場合に選択します。

・WPA2-PSK

WPA2-PSK のみを使用する場合に選択します。

・WPA/WPA2-EAP

WPA2-EAP または WPA-EAP を使用する場合に選択します。

・WPA/WPA2-PSK

WPA2-PSK または WPA-PSK を使用する場合に選択します（初期値）。

②暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・無効

Open System を使用する場合に選択できます。

無線セキュリティを使用しません。

・WEP

Open System または Shared Key を使用する場合に選択できます。

暗号化に WEP を使用します。

・自動（AES/TKIP）

WPA-PSK、WPA2-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES または TKIP を使用します（初期値）。

・AES

WPA2-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES を使用します。

・TKIP

WPA-PSK、WPA-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に TKIP を使用します。

※ AES ＞ TKIP ＞ WEP の順番で暗号の解読が困難になります。

③暗号化

WEP を選択した場合に、暗号強度を 64Bit、128Bit の 16 進数または ASCII 文字列から選択します。

④ WEP キー

暗号化の選択後、WEP キー（暗号化）を入力し､「キー 1 ～ 4」から 1 つを選択します。「キー 1 ～4」のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力します。

⑤ WPA 共有キー

WPA/WPA2-PSK と WPA2-PSK を選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意のキーを「ASCII 文字（8 ～ 63 文字」（初期値）または「16 進数（64 文字）」で入力します。

⑥ DTIM

DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を 1 ～5」の間で設定します（初期値：1）。

⑦更新間隔

WPA 共有キーの更新間隔を「0 ※、300 ～ 1800 秒」で設定します（初期値：300）。

※更新間隔を 0 にした場合は、WPA 共有キーを更新しません。

⑧セキュリティ サーバ

①で「WPA/WPA2-EAP」、「WP2-EAP」、「WPA-EAP」のいずれかを選択した場合に「RADIUS サーバ設定」がクリックできるようになります。［RADIUS サーバ設定］をクリックすると P.122 「○ RADIUS サーバ設定」が表示されます。

⑨［設定］

設定した内容を保存します。

⑩［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

4

⑪［戻る］

P.107 「■ 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

⑫［セキュリティ情報書出し］

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

○ RADIUS サーバ設定

RADIUS サーバの設定をします。

① RADIUS サーバ IP

RADIUS サーバ IP アドレスを設定します。

② RADIUS で使用するポート

RADIUS サーバで使用するポート番号を設定します。

③シークレット

RADIUS サーバと本商品の間で使用する共有キー（共有パスワード）を設定します。

④［設定］

設定した内容を保存します。

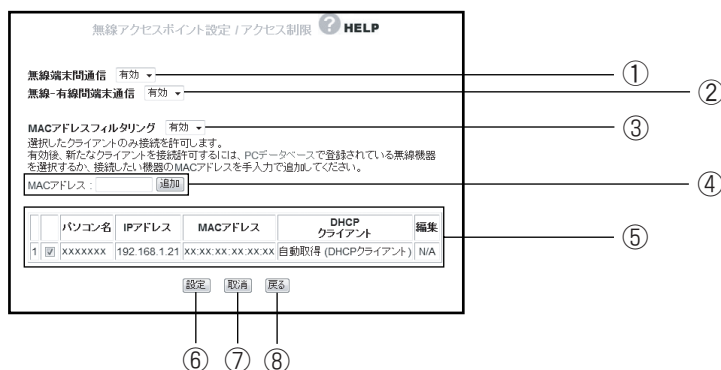
⑤［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑥［戻る］

P.116 「○ 802.11a/n セキュリティ設定」または P.119 「○ 802.11g/b セキュリティ設定」に戻ります。

○アクセス制限

接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

①無線端末間情報

無線端末（パソコンなどのクライアント）同士の通信の制限を設定できます。

・有効

無線端末の通信を有効にします（初期値）。

・無効

無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

②無線－有線間端末通信

有線端末と無線端末間の通信の制限を設定できます。

・有効

有線端末と無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

・無効

有線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

③ MAC アドレスフィルタリング

MAC アドレスを登録した無線端末のみ通信を許可します。

・無効

MAC アドレスフィルタリングを無効にします（初期値）。

・有効

MAC アドレスフィルタリングを有効にします。

④ MAC アドレス

通信を許可したい MAC アドレスを手動でリストに登録することができます。

4

⑤リスト

PC データベースに登録されたクライアントの中から無線端末を表示します。

リストでチェックを付けたクライアントのみ通信を許可します。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［取消］

［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.107「■ 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

○マルチ AP 設定

背面の「マルチ AP 機能スイッチ」を使用して作成されたセカンド SSID の設定をすることができます。

①マルチ AP 機能

マルチ AP 機能の状態を表示します。

マルチ AP 機能の ON/OFF は背面の「マルチ AP 機能スイッチ」で操作します。

②ネットワーク名（SSID）

セカンド SSID のネットワーク名が表示されます。

工場出荷時の状態の SSID は「CG-Guest」です。

③転送レート

転送レート（無線 LAN の通信速度）を「自動設定」、（1 ～ 54Mbps）で変更できます（初期値：自動設定）。

※通常は変更する必要はありません。

④ステルス AP

無線 LAN アダプタをもつパソコンから本商品の SSID を検索されないようにしたり、SSID を「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・無効

ステルス AP を無効にします（初期値）。

・有効

ステルス AP を有効にします。

⑤暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

4

・無効

OpenSystem を使用する場合に選択できます。

無線セキュリティを使用しません（初期値）。

・WEP

OpenSystem または Shared key を使用する場合に選択できます。

暗号化に WEP を使用します。

⑥暗号化

暗号強度を64Bit、128Bitの 16進数またはASCII文字列から選択します。

⑦ WEP キー

暗号化の選択後、WEP キー（暗号キー）を入力し、「キー 1」に設定する暗号キーを直接入力します。

⑧［設定］

設定した内容を保存します。

⑨［取消］

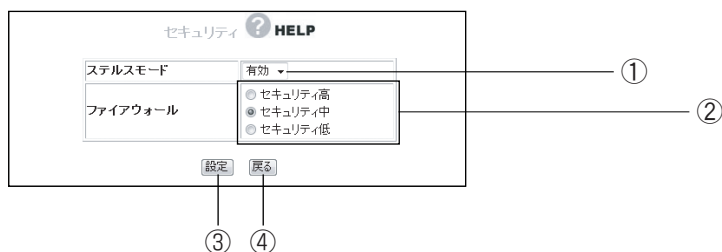
［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑩［戻る］

P.107 「■ 無線アクセスポイント設定」の戻ります。

4.1.6 セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティ設定ができます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①ステルスモード

WAN（インターネット）側への PING リクエスト（通信確認リクエスト）の応答を設定できます。

・有効

WAN 側からの PING に応答しなくなり、本商品の存在を隠すことができます（初期値）。

・無効

WAN 側からの PING に対応し、本商品の存在を確認できます。お互いの存在を確認しながらインターネット接続を行う場合にはこちらを選択します。

②ファイアウォール

ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります。

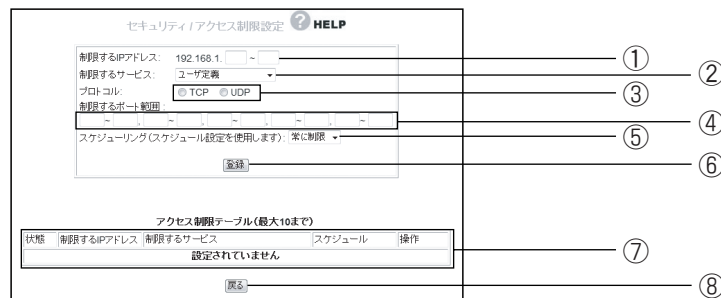
③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.82 「4.1.1 CG-WLBARAGND（トップページ）」に戻ります。

■アクセス制限

本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定することができます。

①制限する IP アドレス

アクセスを制限したい IP アドレスの範囲を登録します。

②制限するサービス

アクセスを制限するサービスを一覧「www（ウェブブラウズ)、「E-mail 送信」、「E-mail 受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全ての TCP ポート」、「全ての UDP ポート」、「ユーザ定義」（初期値）から選択します。

③プロトコル

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合にプロトコルを「TCP」（初期値)、「UDP」から選択します。

④制限するポート範囲

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に任意のポートを指定できます。

⑤スケジューリング（スケジュール設定を使用します）

制限する時間を選択することができます。

・常に制限

常時アクセスを制限します。

・スケジュール

P.132 「■ スケジュール」で登録した時間でアクセス制限をかけることができます。

⑥［登録]

設定した内容で登録します。

⑦アクセス制限テーブル（最大 10 まで）

登録されたアクセス制限を表示します。

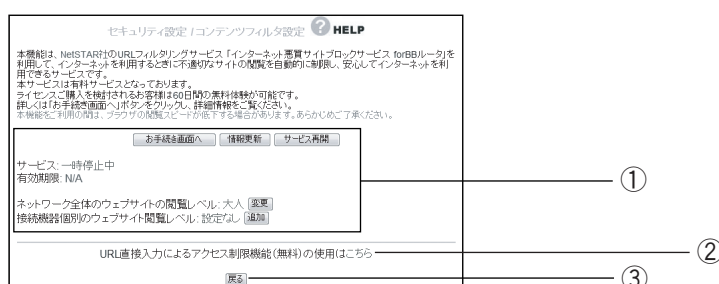
⑧［戻る］

P.127「4.1.6　セキュリティ設定」に戻ります。

4

■コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社が提供する有料サービス「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」（コンテンツフィルタ）を使用することができます。また、「URL フィルタ」機能も使用することができます。

ルータ機能が無効の場合はご利用いただけません。

①コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社の「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。本機能の紹介および設定方法は、付属の「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

② URL フィルタ

P.131 「○ URL フィルタ」を表示させることができます。

③［戻る］

P.127 「4.1.6 セキュリティ設定」に戻ります。

○ URL フィルタ

登録した文字列が含まれる URL へのアクセスを制限することができます。

①説明

アクセス制限の説明をつけることができます。

②制限する IP アドレス

URL フィルタの対象にするパソコンの IP アドレスを範囲指定できます。

③ URL またはキーワード

アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。

例：violence

④［登録］

設定した内容で登録します。

⑤ URL フィルタテーブル（最大 10 まで）

登録された URL フィルタを表示します。

⑥［戻る］

P.127「4.1.6　セキュリティ設定」に戻ります。

4

■スケジュール

本項目で設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は P.128 「■ アクセス制限」で指定して実行してください。

①名前

スケジュールに任意の名前と付けることができます。

登録した名前が P.128 「■ アクセス制限」のスケジューリングに表示されます。

②コメント

任意の説明文を付けることができます。

③スケジュール

ここで時間帯を設定します。24 時間表記で入力します。

・曜日

制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。

・開始時間

制限を開始する時間を入力します。

・終了時間

制限を終了する時間を入力します。

④［登録］

設定した内容で登録します。

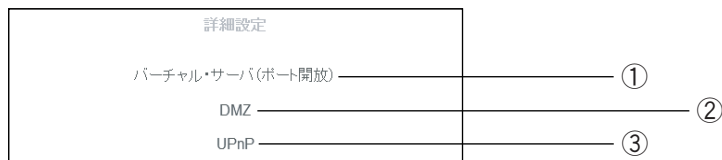
⑤スケジュールテーブル（最大 10 まで）

登録されたスケジュールを表示します。

⑥［戻る］

P.127 「4.1.6 セキュリティ設定」に戻ります。

4.1.7　詳細設定

本商品の詳細設定ができます。

①バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。

② DMZ

UPnP に対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。

③ UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

4

■バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを開放するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。設定方法は、P.28「2.3 ポートを開放するには」をご覧ください。

①接続先

バーチャル・サーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。

PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

②サービス

使用するサービスを選択します。

③ポート範囲

使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN 側と LAN 側のポート範囲が入力できます。

④プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

⑤備考

サーバの説明を付けることができます。

※空欄のままでも使用できます。

⑥［登録］

設定した内容で登録します。

⑦バーチャル・サーバリスト

登録した内容を表示します。

⑧［戻る］

P.133「4.1.7 詳細設定」に戻ります。

・①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PC データベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法はP.104「○ PC データベース」をご覧ください。

・パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。

・ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単にWAN 側から LAN 側のサーバに接続することができます。

4

■ DMZ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
UPnP に対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。
P.134 「■ バーチャル・サーバ（ポート開放）」を使って接続できない場合に使用します。

① DMZ ホスト

DMZ 機能を使用するパソコンを選択します。

PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

※ DMZ の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

※ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続することができます。

②［設定］

選択したパソコンで設定します。

③［戻る］

P.133 「4.1.7 詳細設定」に戻ります。

■ UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。

① UPnP を使用する

UPnP の「有効」（初期値）、「無効」を選択します。

②［設定］

変更した内容で設定します。

③［戻る］

P.133「4.1.7　詳細設定」に戻ります。

○ UPnP使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

① UPnP ポートリスト

使用している UPnP の内容を表示します。

② [戻る]

P.137 「■ UPnP」に戻ります。

4.1.8 管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

①管理者ログイン名

設定画面へのログイン名を変更します（初期値：root）。

②管理者ログイン・パスワード

設定画面へのログイン・パスワードを設定できます（初期値：空欄）。

③パスワードの確認

管理者ログイン・パスワードを変更する場合は、確認のため②で入力したパスワードを入力します。

④ IP マスカレード・テーブル保持時間

IP マスカレードのテーブル保有時間を「0 ～ 300」分で設定できます（初期値：10 分）。

設定時間を長くすることで、FTP サーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤時間設定

本商品の時間設定ができます。

・自動設定

NTP サーバを検出して自動で時刻を設定します。

・手動設定

「年／月／日」の順に設定します。

4

⑥工場出荷時の状態へ戻す

［実行］をクリックすると本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時（初期値）の状態に戻します。

※実行する前に設定内容は控えておくことをお勧めします。

⑦再起動

［実行］をクリックすると本商品を再起動します。

⑧設定保存

［保存］をクリックすると現在の設定内容をファイルに保存することができます。

⑨設定読込

［読込］をクリックすると保存した設定内容を読み込みます。

⑩ファームウェア更新

P.141「■　ファームウェア更新」を表示します。

⑪リモート

P.142「■　リモート」を表示します。

⑫ PING テスト

P.143「■　PING テスト」を表示します。

本商品から PING テストを実行する場合に表示します。

⑬［設定］

設定した内容を保存します。

⑭［取消］

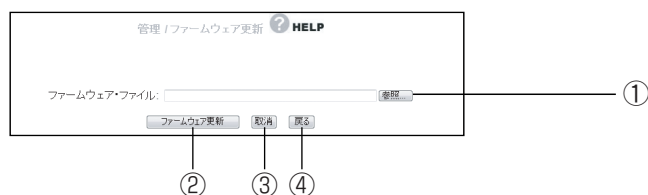
［設定］をクリックする前に限り、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑮［戻る］

P.82「4.1.1　CG-WLBARAGND（トップページ）」に戻ります。

■ファームウェア更新

コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを本商品に読み込ませることができます。

ファームウェアの更新は、P.41「3.2 最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは」の手順に従ってください。

① [参照]

ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

② [ファームウェア更新]

ファームウェアファイルを選択後、[更新] をクリックするとファームウェアの更新を開始します。

③ [取消]

ファームウエアの更新を中断します。

※更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。

※更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

④ [戻る]

P.139 「4.1.8 管理」に戻ります。

■リモート

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を開く場合にあらかじめこの設定をしておきます。

①リモート

リモート設定の有効／無効を選択します。

・有効

WAN 側から本商品の設定ができます。

・無効

WAN 側から本商品の設定はできません（初期値）。

②ポート

リモート設定を有効にした場合に。「1」～「9600」の範囲でポート番号を入力します（初期値：8080）

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.139 「4.1.8 管理」に戻ります。

- **リモート機能で設定したポート番号が、バーチャル・サーバなどでは使用できません。**
- **インターネット側（WAN 側）から接続する場合は、次の例のように IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN 側の IP アドレスは P.145 「4.1.9 ステータス」で確認できます。**

例：http://xx.xx.xx.xx：□□

ポート番号

本商品のWAN側のIPアドレス

- **ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、IP アドレスではなくダイナミック DNS 名で接続することができます。**

■ PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信可能な状態かどうか確認するためのテストをします。

①宛先アドレス

テストを実行するパソコンの IP アドレスを入力します。

②［実行］

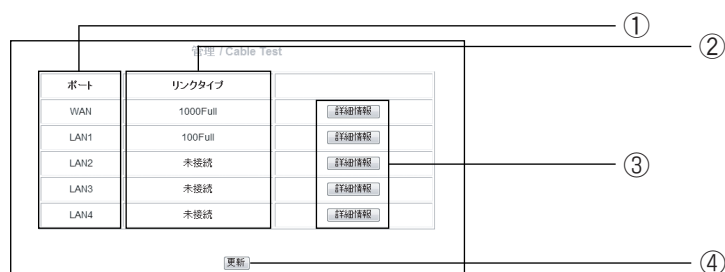
①で IP アドレスを入力後、［実行］をクリックすると PING テストを開始します。

③宛先／実行結果

PING テストの結果が表示されます。

4

■ Cable Test

使用しているポートのリンク速度を表示します。

①ポート

WAN、LAN1 ～４それぞれの状態を確認できます。

②リンクタイプ

接続状態を「1000Full」、「1000Half」、「100Full」、「100Half」、「10Full」、「10Half」、「未接続」で表示します。

③［詳細情報］

詳細情報を表示します。

④［更新］

表示内容を更新します。

4.1.9 ステータス

本商品のステータスを表示します。

・IP自動取得（DHCP）の場合

① ② ③

・PPPoEの場合

④

■ IP 自動取得（DHCP）の場合

①［解放］

WAN 側 IP アドレスを解放します。

②［再取得］

WAN 側 IP アドレスを再取得します。

③［更新］

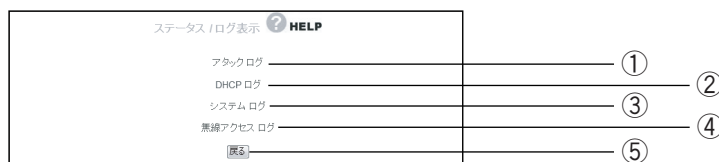
表示している情報を更新します。

■ PPPoE の場合

④［更新］

表示している情報を更新します。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。

①アタックログ

DoS アタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの 1 つです。

② DHCP ログ

本商品の DHCP サーバ機能の稼働状況を表示します。

③システムログ

本商品のアクセス履歴などを表示します。

④無線アクセスログ

本商品の無線のみアクセス履歴などを表示します。

⑤［戻る］

P.145 「4.1.9 ステータス」に戻ります。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなど直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。

本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体左側面の製品ラベル内の「ネットワーク名（SSID/MAC)」に記載されています。LAN 側の MAC アドレスは、設定画面の**P.145**「4.1.9 ステータス」で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。

・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。

・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本商品は、GNU General Public License Version 2 に基づき許諾されるソフトウェアのソースコードを含んでいます。これらのソースコードはフリーソフトウェアです。お客様は、Free Software Foundationが定めたGNU General Public License Version 2の条件に従ってこれらのソースコードを再頒布または変更することができます。これらのソースコードは有用と思いますが、頒布にあたっては、市場性及び特定目的適合性についての暗黙の保証を含めて、いかなる保証も行ないません。詳細についてはコレガホームページ内の「GNU 一般公有使用許諾書（GNU General Public License)」をお読みください。なお、ソースコードの入手をご希望されるお客様は、コレガホームページ、サポート情報内の個別製品の「ダウンロード情報」をご覧ください。配布時に発生する費用はお客様のご負担になります。

2008 年　2 月　初版